がん診療連携拠点病院等
院内がん登録

2009-2010 年 5 年生存率集計　報告書

国立がん研究センター　がん対策情報センター
がん登録センター　院内がん登録分析室

令和元年 8 月
国立がん研究センター　がん対策情報センター

がん診療連携拠点病院　院内がん登録 2009-2010 年 5 年生存率集計

2016 年 1 月がん登録等の推進に関する法律が施行され、同第四十条第一項において、「専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に即して院内がん登録を実施するよう努めるものとする」とされています。また厚生労働省告示第四百七十号の院内がん登録の実施に係る指針では、「国立研究開発法人国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報に基づいたがん統計等の算出等を行うことにより、専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握に資すること」とされ、更に「病院や国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等に資すること」と明記されています。

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断例から全国のがん診療連携拠点病院から院内がん情報を収集し、がん診療連携拠点病院の実態把握のための一つの参考資料となるよう、毎年院内がん登録全国集計報告書を公表しています。今回、院内がん情報をもととした生存率に関する資料として、2009 年、2010 年診断例を合算して一定の対象数を確保した上で、がん診療連携拠点病院全体、都道府県別、施設別の 5 年生存率集計を行いました。

本報告書では、2008-2009 年 2 カ年 5 年生存率報告書と同様に、がん診療連携拠点病院全体での病期、観血的治療の実施別に生存率を推定するだけでなく、都道府県、施設別の生存率集計においても、がんの病期別に生存率を推定しました。しかしながら、がん患者さんの生存率には、院内がん情報としてデータ収集しているがんの病期、年齢、性別だけでなく、対象者の併存疾患の有無や身体機能の状態にも大きく影響を受けることが分かっています。このように生存率集計結果の解釈については依然課題がありますが、本報告書をご覧いただき、がん診療連携拠点病院が一丸となり、がん患者さんの治療に責任感と誠意をもって取り組んでいることをご理解いただけますと幸いです。

令和元年 8 月
国立研究開発法人国立がん研究センター　理事長

中釜　斉

生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん（部位）によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査（いわゆる予後調査）が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られているため、また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る等、生存率の結果の解釈には留意する必要がある。

1）生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10～15%高く推定されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がん（成人病）センター協議会（全がん協）の集計方法を踏まえて、生存状況把握割合[注 1)]が 90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合を目指すべきであると考えられる。

2）生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル（Net Survival）」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル（Net Surival）」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうかが判定できなければならず、そのために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル（Net Survival）」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢、診断年（歴年）の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer Ⅰ法、EdererⅡ法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル（Net Survival）」が注目されている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた EdererⅡ法を用いた。

3）既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がん（成人病）センター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した。

4）生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全がん協の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院に限ってのデータであることに留意する必要がある。更に、都道府県別の集計結果を記載しているが、施設数が少ない都道府県のデータについてはかなりの偏りあるいは不正確さが存在していることを想定する必要がある。このため、ここで示した生存率が、単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないことに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期（がんの進行状況）、④観血的治療の有無（手術の有無）、⑤組織型（肺がんの場合）などを参考資料として併記して示している。

注1： 全がん協調査などでは、消息判明率、追跡率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料
がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子

2001 年 9 月、大阪府立成人病センター調査部
がん専門施設における生存率計測の標準化　木下洋子他、
癌の臨床　第 46 巻第 10 号、2000 年 9 月、篠原出版新社

目　次

がん診療連携拠点病院　院内がん登録 2009-2010 年 5 年生存率集計 2
生存率について 3
Ⅰ 2009-2010 年 5 年生存率集計　調査方法 7
1. 収集の対象と方法 7
（1） 収集の対象 7
（2） 収集方法 7
（3） 収集項目と定義 7
2. 集計の対象と集計方法 8
（1） 集計の対象 8
（2） 集計の手順 8
（2） 集計項目の定義 9
（3） 集計方法 10
（4） 公表の対象 10
Ⅱ 2009-2010 年 5 年生存率集計　結果概要 13
1. 調査参加施設と登録数 13
2. 集計対象 13
3. 相対生存率集計対象者 13
4. 既存生存率集計との比較 22
Ⅲ 2009-2010 年 5 年生存率集計　結果詳細（全体）：悪性新生物＜腫瘍＞ 25
1. 全がん 25
2. 胃（C16） 28
3. 大腸（C18-20） 30
4. 肝（C22） 32
5. 肺（C33-34） 34
6. 女性乳房（C50） 36
7. 食道（C15） 38
8. 膵臓（C25） 40
9. 子宮頸部（C53） 42
10. 子宮体部（C54） 44
11. 前立腺（C61） 46
12. 膀胱（C67） 48
13. 特別集計：局在コード 50
付表（2009-2010 年 5 年生存率集計） 58
1. 生存状況把握割合について
2. 2009-2010 年 5 年生存率集計　結果詳細（都道府県別）
3. 2009-2010 年 5 年生存率集計　結果詳細（施設別）

Ⅰ 2009-2010 年 5 年生存率集計 調査方法

1. 収集の対象と方法

(1) 収集の対象

本集計では、平成 29 年 4 月 1 日時点のがん診療連携拠点病院 433 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2010 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる全国のがん診療連携拠点病院に、「予後情報付集計」の名称で、2010 年 5 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、平成 22(2010)年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者*である。これら対象例の 5 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」とする。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。また、2009 年診断例のデータについては、平成 28 年の院内がん登録 2009 年予後情報付集計の際に提出されたデータを用いた。

＊ 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とするかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数のがん診療連携拠点病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

(2) 収集方法

平成 29 年 6 月 9 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計　手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用い、インターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、平成 29 年 6 月 19 日から 7 月 14 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義　2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」とする。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、ネットワーク型ではデータの収受の段階で品質管理を実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供及び従来型の光学メディア記録の形でのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としない。

(3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 5 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

＊ 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日の年月が判明している場合は死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

追跡期間 (日) = 追跡終了日 - 起算日 +1

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2010 年全国集計報告書を参照いただきたい。

i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設に受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

iii. 臨床病期

治療前ステージ

UICC（International Union Against Cancer）の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままで登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2009-2010 年登録対象は UICC TNM 第 6 版準拠で登録されている。

iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは、治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法（鎮痛剤、制吐剤）などは含まない。また、通常の静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法（TACE）に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

⑤外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を登録する。例えば、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

2. 集計の対象と集計方法

（1）集計の対象

生存率集計における集計対象は、2009 及び 2010 年に診断された例で次の i から iii を満たす例を集計対象とした。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

ii. 悪性新生物＜腫瘍＞（一部良性の脳腫瘍）

本集計では、原則として新生物＜腫瘍＞の性状コード 3 の「悪性、原発部位（悪性新生物＜腫瘍＞）」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。

iii. 年齢

診断時の年齢が 0 から 99 歳までの例を集計対象とした。

（2）集計の手順

①集計対象例の選定

提出されたデータから上記の i から iii に該当する例を抽出した。

i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表 1-1 集計

用診断日の決定のルール、及び表 1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目:集計用診断日」、「項目:集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が 2, 3 であった例を集計対象とした。

ii 悪性新生物＜腫瘍＞(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目:330 組織診断名コード」の新生物＜腫瘍＞の性状を表す第５桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD－O-3 の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であった場合も集計対象に含めた。

iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月＞＝生年月日の月

⇒診断年月の年－生年

診断年月の月＜生年月日の月

⇒診断年月の年－生年－1

上記で求めた年齢が 0～99 歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の㋐～㋒に該当する場合は集計対象から除外した。

㋐性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目:性別が 9)であった者を除外した。

㋑追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目 660：予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

㋒UICC TNM 分類総合ステージが０期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要な要因である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類（治療前ステージ）と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例（外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳）については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例（術後病理学的ステージ適応外例）及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとして UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外は UICC TNM 分類治療前ステージを UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが０期であった場合は、集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。院内がん登録では、日付情報は、年月までしかデータ収集していないため、日付を含めた追跡期間の確認は、品質管理において実施している。

③ 集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。5年生存率を計算する場合には、対象者全員の5年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がん(成人病)センター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を 100%に近づけるほど、真の値に近づくとされ、概ね 95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がん(成人病)センター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が 90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例(2010 年の全がん)の生存状況把握割合が 90%以上の施設を集計対象とした。また、別途 2009 年診断例においても対象例(全がん)の施設の生存状況把握割合が 90%以上の施設を選定した。その上で、2010 年調査対象施設において 2010 年診断例の生存状況把握割合が 90%以上の施設で、かつ 2009 年診断例の集計対象例においても生存状況把握割合が 90%以上であった場合は、それらデータを合算して生存率集計に用いた。

生存状況把握割合＝(1－(打ち切り例数)/集計対象例数)×100

(2) 集計項目の定義

● 部位区分

表 1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

● 臨床病期

<u>UICC TNM 分類総合ステージ</u>

2009 年、2010 年診断例では、UICC TNM 分類第 6 版に準拠して UICC TNM 分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されており、第 6 版では、癌(Carcinoma)のみが分類の対象である(肝臓については肝細胞癌、肝内胆管癌に適用)。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は

治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録されている TNM 情報からみてステージが UICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

UICC TNM 分類総合ステージの対象例は、以下の組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-8110, 8120-8131, 8140-8149, 8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551, 8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157, 8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255, 8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015, 8020-8022, 8050, 8000-8005
但し、前立腺は 8120-8131 を除く

UICC TNM 分類総合ステージ分布では、上記組織形態コードのみを集計する。

- 観血的治療

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

(3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、5 年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が 5 年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、5 年後の生存状況＝死亡(1)とした。

生存率は、カプランマイヤー法を用いた実測生存率と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターにおいて作成されたコホート生存率表(2015 年版)を用い、EdererⅡ法を用いた相対生存率を推定した。なお、本報告書では StataMP 14.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発したstrsを用いて相対生存率を推定している。

なお、本報告書では施設別相対生存率は、他死因を調整しきれないため施設別実測生存率のみ算出する。

(4) 公表の対象

平成 30 年度第 1 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が 30 例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が 30 例未満の場合は、5 年生存率を公表しないこととする。施設別生存率の公表においては、各施設においてデータ精度を含め、公表の可否について検討していただいたのち、公表可の場合は生存率を施設からの意見とともに公表する。公表を差し控える場合においても、施設からの意見がある場合には意見とともに公表する。都道府県別集計値については、各都道府県の協議会等で検討していただいた後、都道府県の意見を合わせて公表する。なお、各集計表において、集計値が 10 以下の場合、個人が特定される可能性が高いことを踏まえ、厚生労働省の指示により、平成 29 年第 9 回がん診療提供体制のあり方に関する検討会(資料)の指標 2「少数例のがんの情報提供について」に基づき(http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000168810.html)、1-3 件の場合は「(1-3)」、4-6 件の場合は「(4-6)」、7-9 件の場合は「(7-9)」と表示している。

参考資料

1)全国がん(成人病)センター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案) 2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1:診断のみ	診断日2	
2:自施設診断自施設治療	診断日2	
3:他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4:初回治療開始後の症例、もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	＊
5:剖検	診断日2	死亡日
8:その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	＊

＊ 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2009 又は 2010 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1:初発	1:自施設診断	1:自施設で治療	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	3:自施設で経過観察	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	4:他施設へ紹介	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	8:来院中断	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	9:その他	1:診断のみ
1:初発	2:他施設診断	1:自施設で治療	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
1:初発	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
1:初発	2:他施設診断	9:その他	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	1:自施設で治療	4:初回治療開始後の症例、もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	4:初回治療開始後の症例、もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	9:その他	8:その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚（黒色腫を含む）		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

Ⅱ 2009-2010 年 5 年生存率集計 結果概要

1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した 433 施設のうち、338 施設から 2010 年 5 年予後情報付腫瘍データが提供された（協力率 78.1%）。また、平成 28 年に調査した 2009 年 5 年予後情報付腫瘍データを提出した施設については、2009 年 5 年予後情報付腫瘍データも合わせて集計した。表 2-1 に 2010 年診断例の全登録数と集計対象を示す。

2. 集計対象

（1）集計の対象

①集計対象例の選定

i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出された 2010 年データで、「自施設診断・自施設初回治療（症例区分 2）」が 305,875 例（61.6%）、「他施設診断・自施設初回治療（症例区分 3）」が 101,287 例（20.4%）であり、全登録数の 82.0%を占めた。施設の全登録数に占める自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療の登録割合は平均 81.9%であった。

ii 悪性新生物＜腫瘍＞

症例区分 2, 3（自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療）のうち悪性新生物＜腫瘍＞（新生物＜腫瘍＞の性状コードが 3）は、361,627 例（88.8%）であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、368,371 例（90.5%）であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100 歳以上が 105 例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70 歳代が 31.7%と最も多く、次いで 60 歳代が 28.7%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明若干名及び UICC TNM 分類総合ステージ 0 期 123 例を集計対象から除外した。

②追跡期間（日数）の確認

データ提出された追跡期間（日数）が集計側で起算日及び死亡日又は最終生存確認日から計算した追跡可能期間（日数）の幅に当てはまらなかった例が施設当たり 5 例未満であった場合は、起算日及び死亡日又は最終生存確認日の日付を 1 日として集計側で算出した追跡期間（日数）を生存率の算出に用いた。

（2）生存状況把握割合

各施設における症例区分 2 又は 3、及び悪性新生物＜腫瘍＞（新生物＜腫瘍＞の性状コードが 3）の全登録数に対する生存状況把握割合について検討した結果、2010 年単年で最も低かった施設の生存状況把握割合は、49.4%で、最も高かった施設は 100.0%であった。提出された 2010 年データ全体でみると生存状況把握割合は 94.3%であった。都道府県・施設別生存状況把握割合について図 2-1 に示した。以降の集計結果では、2010 年診断例で生存状況把握割合が 90%以上であった 277 施設における登録例を集計対象とし、かつこれら施設で 2009 年診断例についても全がんの集計対象の生存状況把握割合が 90%以上であった場合は、2009-2010 年生存率集計として集計に含めた。

3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が 90%以上であった 277 施設において症例区分 2、3 かつ新生物＜腫瘍＞の性状コードが 3（悪性新生物＜腫瘍＞）または脳の腫瘍性疾患の良性、良性又は悪性の別不詳、0～99 歳であった集計対象例は、568, 005 例であった。

表 2-1 2010 年診断例の全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	61 施設	(%)	277 施設	(%)	338 施設	(%)
全登録数	74,641	100.0	422,309	100.0	496,950	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	4,272	5.7	19,937	4.7	24,209	4.9
2. 自施設診断・自施設初回治療	47,284	63.3	258,591	61.2	305,875	61.6
3. 他施設診断・自施設初回治療	14,471	19.4	86,816	20.6	101,287	20.4
4. 初回治療開始後・再発	7,032	9.4	41,869	9.9	48,901	9.8
5. 剖検	33	0.0	213	0.1	246	0.0
6. 不明・その他	1,549	2.1	14,883	3.5	16,432	3.3
症例区分(2, 3)(再掲)	61,755	82.7	345,407	81.8	407,162	81.9
症例区分 2, 3 のうち						
良性	806	1.3	4,913	1.4	5,719	1.4
良性又は悪性の別不詳	154	0.2	886	0.3	1,040	0.3
上皮内癌	5,795	9.4	32,981	9.5	38,776	9.5
悪性新生物＜腫瘍＞	55,000	89.1	306,627	88.8	361,627	88.8
集計対象腫瘍*	55,960	90.6	312,411	90.4	368,371	90.5
症例区分 2,3、集計対象腫瘍のうち						
年齢 0～14 歳	187	0.3	1,220	0.4	1,407	0.4
15～39 歳	1,809	3.2	10,866	3.5	12,675	3.4
40 歳代	3,220	5.8	18,974	6.1	22,194	6.0
50 歳代	7,203	12.9	41,917	13.4	49,120	13.3
60 歳代	15,987	28.6	89,859	28.8	105,846	28.7
70 歳代	18,244	32.6	98,372	31.5	116,616	31.7
80-99 歳	9,293	16.6	51,115	16.4	60,408	16.4
100 歳以上	17	0.0	88	0.0	105	0.0
0～99 歳（再掲）	55,943	100.0	312,323	100.0	368,266	100.0
除外対象	32	0.1	91	0.0	123	0.0
性別不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
追跡終了日不明	13	0.0	13	0.0	26	0.0
総合ステージ 0 期	19	0.0	78	0.0	97	0.0
集計対象例	55,911		312,232		368,143	

表 2-2　調査参加施設の全登録数及び症例区分 2，3 の登録数（2010 年診断例）

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分 2）	他施設診断自施設治療（症例区分 3）	自施設治療（症例区分 2，3）登録割合
総数		496,950	305,875	101,287	81.9
北海道	北海道がんセンター	2,190	981	582	71.4
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	1,424	960	244	84.6
	王子総合病院	905	708	90	88.2
	市立釧路総合病院	915	684	107	86.4
	市立札幌病院	1,199	861	204	88.8
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	1,375	1,045	200	90.5
	北見赤十字病院	1,315	723	251	74.1
	社会医療法人母恋　日鋼記念病院	637	344	61	63.6
	函館厚生院　函館五稜郭病院	1,476	1,137	219	91.9
	札幌医科大学附属病院	2,031	957	490	71.2
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院	1,465	1,004	233	84.4
	手稲渓仁会病院	1,773	1,141	290	80.7
	旭川医科大学病院	1,467	718	458	80.2
	独立行政法人　労働者健康安全機構　釧路労災病院	663	543	100	97.0
	KKR 札幌医療センター	1,017	714	84	78.5
青森	青森県立中央病院	1,780	1,038	409	81.3
	八戸市立市民病院	1,307	930	242	89.7
	三沢市立三沢病院	404	283	51	82.7
	十和田市立中央病院	615	406	69	77.2
岩手	岩手県立中央病院	1,833	1,356	304	90.6
	岩手県立二戸病院	422	266	63	78.0
	岩手医科大学附属病院	2,617	1,154	902	78.6
	岩手県立中部病院	1,029	645	232	85.2
	岩手県立磐井病院	607	357	141	82.0
	岩手県立宮古病院	401	263	67	82.3
	岩手県立胆沢病院	693	538	113	93.9
	岩手県立久慈病院	432	309	42	81.3
	岩手県立釜石病院	379	172	88	68.6
宮城	東北大学病院	3,400	1,338	933	66.8
	宮城県立がんセンター	1,798	960	437	77.7
	石巻赤十字病院	1,419	933	170	77.7
	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	1,251	900	276	94.0
	大崎市民病院	1,321	1,050	185	93.5
	独立行政法人労働者健康安全機構　東北労災病院	895	573	196	85.9
秋田	秋田大学医学部附属病院	1,689	813	590	83.1
	秋田県厚生農業協同組合連合会　由利組合総合病院	532	389	76	87.4
	大曲厚生医療センター	614	464	81	88.8
	秋田県厚生連　平鹿総合病院	831	692	104	95.8
	秋田県厚生農業協同組合連合会　能代厚生医療センター	544	412	57	86.2
	秋田赤十字病院	1,143	884	156	91.0
	大館市立総合病院	554	347	131	86.3
	秋田県厚生農業協同組合連合会　秋田厚生医療センター	878	631	181	92.5
山形	山形県立中央病院	1,791	1,236	398	91.2
	山形大学医学部附属病院	1,665	934	428	81.8
	山形市立病院済生館	1,011	738	131	86.0
	置賜広域病院企業団　公立置賜総合病院	823	559	153	86.5
福島	労働者健康安全機構　福島労災病院	982	522	230	76.6
	福島県立医科大学附属病院	2,037	888	513	68.8
	一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院	1,706	1,169	317	87.1
	竹田綜合病院	1,237	738	231	78.3
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	1,909	1,034	396	74.9
	会津中央病院	690	556	65	90.0
茨城	茨城県立中央病院	1,454	936	280	83.6
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター	901	659	117	86.1

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2，3）登録割合
	茨城県厚生農業協同組合連合会　総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	1,751	1,270	218	85.0
	株式会社日立製作所　日立総合病院・茨城県地域がんセンター	1,439	1,082	194	88.7
	友愛記念病院	777	464	93	71.7
	茨城県厚生農業協同組合連合会　茨城西南医療センター病院	421	291	39	78.4
	筑波大学附属病院	2,175	1,157	527	77.4
	国立病院機構水戸医療センター	885	597	202	90.3
	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	438	310	43	80.6
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	2,161	1,096	625	79.6
	自治医科大学附属病院	3,271	1,983	730	82.9
	栃木県済生会宇都宮病院	1,535	1,224	170	90.8
	獨協医科大学病院	2,458	1,668	465	86.8
	那須赤十字病院	825	649	34	82.8
群馬	群馬県立がんセンター	2,073	954	721	80.8
	独立行政法人国立病院機構　渋川医療センター	503	332	82	82.3
	独立行政法人国立病院機構　高崎総合医療センター	1,283	812	178	77.2
	公立富岡総合病院	833	546	149	83.4
	桐生厚生総合病院	752	616	44	87.8
	前橋赤十字病院	1,198	849	226	89.7
埼玉	さいたま赤十字病院	1,304	1,001	176	90.3
	埼玉県立がんセンター	3,910	1,908	1,223	80.1
	深谷赤十字病院	590	457	116	97.1
	春日部市立医療センター	759	450	92	71.4
	埼玉医科大学総合医療センター	2,382	1,391	349	73.0
	獨協医科大学越谷病院	1,718	1,085	290	80.0
	川口市立医療センター	1,047	722	157	84.0
	埼玉医科大学国際医療センター	3,946	1,934	1,379	84.0
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院	1,047	705	132	79.9
千葉	国立研究開発法人　国立がん研究センター東病院	4,706	2,040	1,453	74.2
	国保旭中央病院	2,393	1,885	181	86.3
	医療法人鉄蕉会　亀田総合病院	2,698	1,771	443	82.1
	国保直営総合病院　君津中央病院	1,346	960	139	81.6
	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	931	708	156	92.8
	船橋市立医療センター	1,466	965	266	84.0
	千葉大学医学部附属病院	2,649	1,536	787	87.7
	独立行政法人国立病院機構　千葉医療センター	847	693	96	93.2
	東京歯科大学市川総合病院	1,280	812	141	74.5
	順天堂大学医学部附属浦安病院	1,541	1,154	235	90.1
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	1,349	1,092	141	91.4
	国保松戸市立病院	1,191	650	85	61.7
	日本医科大学千葉北総病院	995	723	109	83.6
東京	国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院	6,680	2,313	2,024	64.9
	東京都立駒込病院	3,661	1,774	835	71.3
	青梅市立総合病院	818	676	98	94.6
	NTT 東日本関東病院	2,113	1,231	488	81.4
	日本赤十字社医療センター	1,943	896	357	64.5
	日本大学医学部附属板橋病院	2,307	1,426	365	77.6
	武蔵野赤十字病院	2,007	1,294	325	80.7
	がん研有明病院	8,650	3,211	2,458	65.5
	国立大学法人　東京大学医学部附属病院	3,493	1,621	854	70.9
	日本医科大学付属病院	2,552	1,576	586	84.7
	聖路加国際病院	2,196	1,231	532	80.3
	帝京大学医学部附属病院	2,026	1,040	408	71.5
	杏林大学医学部付属病院	2,278	1,766	408	95.4
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	3,630	2,108	805	80.2
	昭和大学病院	1,958	1,247	327	80.4

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2，3）登録割合
	慶応義塾大学	3,522	1,879	781	75.5
	東京都立多摩総合医療センター	2,086	1,156	531	80.9
	公立昭和病院	1,444	916	212	78.1
	東京都立墨東病院	1,206	834	147	81.3
	独立行政法人国立病院機構　災害医療センター	779	546	145	88.7
神奈川	神奈川県立がんセンター	3,304	1,349	1,107	74.3
	国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院	2,035	1,400	283	82.7
	横浜市立市民病院	1,657	1,120	274	84.1
	神奈川県厚生農業協同組合連合会　相模原協同病院	1,063	664	116	73.4
	公立大学法人横浜市立大学附属病院	2,413	1,143	615	72.9
	聖マリアンナ医科大学病院	2,348	1,502	552	87.5
	東海大学医学部付属病院	3,272	2,001	668	81.6
	藤沢市民病院	1,292	955	186	88.3
	北里大学病院	2,151	1,357	620	91.9
	横浜労災病院	1,595	997	194	74.7
	昭和大学横浜市北部病院	1,953	1,178	471	84.4
	独立行政法人労働者健康安全機構　関東労災病院	930	689	111	86.0
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	2,847	1,717	937	93.2
	新潟県立中央病院	1,257	860	292	91.6
	新潟市民病院	1,638	1,177	346	93.0
	長岡赤十字病院	1,583	1,179	274	91.8
	新潟県厚生農業協同組合連合会　長岡中央綜合病院	1,474	1,093	318	95.7
	新潟大学医歯学総合病院	2,179	1,161	587	80.2
	県立新発田病院	1,218	856	246	90.5
	独立行政法人労働者健康安全機構　新潟労災病院	423	347	59	96.0
富山	富山県立中央病院	2,270	1,499	454	86.0
	黒部市民病院	562	461	48	90.6
	独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院	213	178	10	88.3
	富山大学附属病院	1,143	790	206	87.1
	厚生連高岡病院	1,169	877	154	88.2
	高岡市民病院	690	557	55	88.7
石川	国立大学法人金沢大学附属病院	2,048	1,036	417	70.9
	独立行政法人国立病院機構　金沢医療センター	758	527	103	83.1
	石川県立中央病院	1,748	1,161	447	92.0
	金沢医科大学病院	1,096	730	193	84.2
	小松市民病院	767	520	91	79.7
福井	福井県立病院	1,388	938	247	85.4
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部　福井県済生会病院	1,419	1,063	214	90.0
	福井赤十字病院	1,191	990	114	92.7
	福井大学医学部附属病院	1,226	760	313	87.5
山梨	山梨県立中央病院	1,930	1,174	325	77.7
	山梨大学医学部附属病院	1,614	1,029	306	82.7
長野	長野県厚生農業協同組合連合会　佐久総合病院　佐久医療センター	1,550	982	514	96.5
	国立大学法人　信州大学医学部附属病院	2,156	1,066	497	72.5
	諏訪赤十字病院	1,057	689	183	82.5
	飯田市立病院	841	648	134	93.0
	長野市民病院	1,422	930	355	90.4
	長野赤十字病院	1,652	948	319	76.7
	社会医療法人財団慈泉会　相澤病院	1,284	976	152	87.9
	伊那中央病院	871	549	150	80.3
岐阜	岐阜市民病院	1,257	942	159	87.6
	国立大学法人　岐阜大学医学部附属病院	1,911	980	532	79.1
	高山赤十字病院	562	472	21	87.7
	岐阜県総合医療センター	1,503	1,003	275	85.0
	岐阜県立多治見病院	1,182	859	192	88.9

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2，3）登録割合
	大垣市民病院	1,876	1,611	226	97.9
	社会医療法人厚生会　木沢記念病院	1,057	496	161	62.2
静岡	静岡県立静岡がんセンター	6,095	2,461	1,758	69.2
	静岡県立総合病院	2,451	1,607	585	89.4
	社会福祉法人　聖隷福祉事業団　総合病院　聖隷聖隷三方原病院	1,409	829	202	73.2
	社会福祉法人　聖隷福祉事業団　総合病院　聖隷浜松病院	1,996	1,369	375	87.4
	順天堂大学医学部附属静岡病院	1,465	993	226	83.2
	静岡市立静岡病院	920	719	84	87.3
	藤枝市立総合病院	1,152	915	96	87.8
	浜松医科大学医学部附属病院	1,414	737	417	81.6
	浜松医療センター	1,011	714	166	87.0
	磐田市立総合病院	1,077	797	109	84.1
	富士市立中央病院	761	400	74	62.3
愛知	愛知県がんセンター中央病院	3,024	1,399	1,207	86.2
	愛知県厚生農業協同組合連合会　安城更生病院	1,966	1,473	181	84.1
	海南病院	1,060	846	111	90.3
	国立病院機構 名古屋医療センター	1,490	1,147	89	83.0
	小牧市民病院	1,586	1,242	166	88.8
	豊橋市民病院	2,079	1,469	362	88.1
	名古屋大学医学部附属病院	2,471	1,390	678	83.7
	一宮市立市民病院	305	239	63	99.0
	公立陶生病院	1,117	900	120	91.3
	愛知県厚生農業協同組合連合会　豊田厚生病院	1,329	1,026	136	87.4
	名古屋市立大学病院	1,762	1,125	436	88.6
	名古屋第一赤十字病院	2,070	1,454	278	83.7
	名古屋第二赤十字病院	2,070	1,448	284	83.7
	藤田保健衛生大学病院	2,504	1,413	754	86.5
三重	日本赤十字社　伊勢赤十字病院	1,609	1,154	239	86.6
	松阪中央総合病院	740	588	47	85.8
	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院	1,098	893	67	87.4
滋賀	市立長浜病院	565	489	33	92.4
	滋賀県立成人病センター	1,114	747	196	84.6
	大津赤十字病院	1,450	1,044	212	86.6
	公立甲賀病院	387	328	30	92.5
	彦根市立病院	633	440	93	84.2
	滋賀医科大学医学部附属病院	1,288	738	352	84.6
京都	京都市立病院	1,124	708	135	75.0
	京都第一赤十字病院	1,503	1,120	209	88.4
	京都第二赤十字病院	1,545	1,169	176	87.1
	独立行政法人国立病院機構　京都医療センター	1,648	1,128	258	84.1
	市立福知山市民病院	770	503	106	79.1
	京都岡本記念病院	414	264	16	67.6
大阪府	大阪府立病院機構　大阪急性期・総合医療センター	1,789	1,210	204	79.0
	市立岸和田市民病院	1,293	911	159	82.8
	地方独立行政法人市立東大阪医療センター	1,238	970	137	89.4
	市立豊中病院	1,826	1,420	227	90.2
	大阪国際がんセンター	3,209	2,525	290	87.7
	独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター	2,778	1,609	657	81.6
	大阪赤十字病院	2,446	1,801	340	87.5
	独立行政法人国立病院機構　大阪南医療センター	804	520	150	83.3
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院	1,532	1,123	281	91.6
	大阪医科大学附属病院	2,019	1,054	670	85.4
	大阪市立大学医学部附属病院	2,526	1,442	693	84.5
	国立病院機構　大阪医療センター	1,502	1,078	282	90.5
	八尾市立病院	760	595	89	90.0

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2，3）登録割合
兵庫	兵庫県立がんセンター	3,193	1,592	985	80.7
	神戸大学医学部附属病院	3,331	1,432	913	70.4
	神戸市立医療センター中央市民病院	2,093	1,311	422	82.8
	独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院	1,640	1,012	324	81.5
	公立学校共済組合近畿中央病院	792	621	115	92.9
	姫路赤十字病院	1,606	1,144	326	91.5
	赤穂市民病院	574	527	27	96.5
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	939	662	154	86.9
	兵庫県立淡路医療センター	603	466	68	88.6
	兵庫医科大学病院	2,664	1,279	621	71.3
	兵庫県立柏原病院	229	109	60	73.8
	神戸市立西神戸医療センター	1,517	998	189	78.2
奈良	奈良県立医科大学附属病院	2,395	1,284	524	75.5
	奈良県総合医療センター	860	527	186	82.9
	天理よろづ相談所病院	1,954	1,720	205	98.5
	市立奈良病院	669	461	75	80.1
和歌山	紀南病院	658	358	111	71.3
	独立行政法人国立病院機構　南和歌山医療センター	587	324	157	81.9
	日本赤十字社和歌山医療センター	1,603	1,304	226	95.4
	和歌山県立医科大学附属病院	2,267	1,264	743	88.5
	橋本市民病院	532	319	71	73.3
	公立那賀病院	571	361	77	76.7
鳥取	鳥取県立厚生病院	521	392	55	85.8
	独立行政法人国立病院機構米子医療センター	517	328	89	80.7
	鳥取県立中央病院	773	664	75	95.6
	鳥取市立病院	563	432	76	90.2
	鳥取大学医学部附属病院	1,579	978	290	80.3
島根	松江市立病院	775	523	89	79.0
	松江赤十字病院	1,158	851	142	85.8
	島根大学医学部附属病院	1,184	708	299	85.1
	島根県立中央病院	1,236	1,026	119	92.6
	独立行政法人国立病院機構　浜田医療センター	617	466	70	86.9
岡山	岡山済生会総合病院	1,490	946	261	81.0
	岡山赤十字病院	910	675	108	86.0
	岡山大学病院	2,289	908	941	80.8
	津山中央病院	1,363	916	157	78.7
	川崎医科大学附属病院	1,566	943	325	81.0
広島	広島大学病院	2,607	1,402	728	81.7
	県立広島病院	1,532	874	281	75.4
	広島赤十字・原爆病院	1,330	1,019	171	89.5
	独立行政法人国立病院機構　呉医療センター	1,548	1,007	230	79.9
	東広島医療センター	764	437	95	69.6
	福山市民病院	1,385	676	385	76.6
	市立三次中央病院	610	471	63	87.5
山口	山口県立総合医療センター	677	517	110	92.6
	国立病院機構　岩国医療センター	952	617	163	81.9
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	674	497	65	83.4
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	1,438	981	245	85.3
	国立大学法人　山口大学医学部附属病院	1,717	857	559	82.5
徳島	徳島県立中央病院	976	727	136	88.4
	徳島大学病院	1,609	805	534	83.2
	徳島赤十字病院	1,027	702	190	86.9
	徳島市民病院	808	481	191	83.2
香川	香川県立中央病院	1,449	859	395	86.5
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	1,308	947	212	88.6
	三豊総合病院	1,033	797	99	86.7

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2，3）登録割合
	高松赤十字病院	1,083	750	183	86.1
	国立大学法人　香川大学医学部附属病院	1,314	727	313	79.1
愛媛	市立宇和島病院	1,094	748	175	84.4
	独立行政法人国立病院機構　四国がんセンター	3,045	1,500	921	79.5
	住友別子病院	548	393	45	79.9
	愛媛大学医学部附属病院	1,317	707	396	83.8
	愛媛県立中央病院	1,689	1,270	258	90.5
	松山赤十字病院	1,423	1,080	148	86.3
	社会福祉法人恩賜財団　済生会今治病院	490	259	107	74.7
高知	国立大学法人　高知大学医学部附属病院	1,613	1,007	377	85.8
	高知県・高知市病院企業団立　高知医療センター	1,189	747	411	97.4
福岡	久留米大学病院	2,636	1,453	639	79.4
	公立八女総合病院	564	403	75	84.8
	地方独立行政法人大牟田市立病院	712	443	131	80.6
	社会保険田川病院	679	445	84	77.9
	飯塚病院	1,881	1,455	241	90.2
	北九州市立医療センター	2,373	1,215	685	80.1
	独立行政法人国立病院機構　九州がんセンター	2,437	1,134	660	73.6
	国立大学法人　九州大学病院	3,447	1,598	840	70.7
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	1,926	1,317	377	88.0
	福岡県済生会福岡総合病院	1,172	754	228	83.8
	福岡大学病院	1,822	996	450	79.4
	聖マリア病院	1,236	824	52	70.9
	独立行政法人地域医療機能推進機構　九州病院	1,906	1,218	312	80.3
	産業医科大学病院	1,776	944	434	77.6
佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	1,140	633	255	77.9
	国立大学法人　佐賀大学医学部附属病院	1,813	851	426	70.4
	唐津赤十字病院	711	457	54	71.9
	独立行政法人国立病院機構　嬉野医療センター	769	513	106	80.5
長崎	日本赤十字社長崎原爆病院	967	727	153	91.0
	佐世保市総合医療センター	1,657	1,078	417	90.2
	独立行政法人国立病院機構　長崎医療センター	1,485	938	300	83.4
	地方独立行政法人長崎市立病院機構　長崎みなとメディカルセンター	961	648	150	83.0
	国立大学法人　長崎大学病院	2,232	1,119	749	83.7
	長崎県島原病院	528	311	106	79.0
熊本	熊本大学医学部附属病院	2,672	1,376	662	76.3
	独立行政法人労働者健康安全機構　熊本労災病院	687	447	118	82.2
	人吉医療センター	655	390	92	73.6
	熊本赤十字病院	1,396	961	231	85.4
	国立病院機構　熊本医療センター	1,573	964	242	76.7
	済生会熊本病院	1,750	1,046	350	79.8
	荒尾市民病院	388	268	56	83.5
大分	大分県立病院	1,385	933	283	87.8
	大分赤十字病院	814	495	168	81.4
	大分大学医学部附属病院	1,560	740	506	79.9
	国立病院機構　別府医療センター	596	455	90	91.4
	大分県済生会日田病院	344	168	50	63.4
	中津市立中津市民病院	497	349	101	90.5
宮崎	宮崎県立宮崎病院	993	748	188	94.3
	国立病院機構　都城医療センター	685	397	133	77.4
	宮崎大学医学部附属病院	1,318	772	301	81.4
鹿児島	鹿児島大学病院	2,177	868	669	70.6
	国立病院機構　鹿児島医療センター	678	309	198	74.8
	鹿児島県立薩南病院	199	120	50	85.4
	独立行政法人国立病院機構　南九州病院	232	150	52	87.1

調査結果

都道府県	施設名称	全登録数	自施設診断自施設治療（症例区分2）	他施設診断自施設治療（症例区分3）	自施設治療（症例区分2，3）登録割合
	県民健康プラザ鹿屋医療センター	375	139	117	68.3
	公益財団法人昭和会　今給黎総合病院	827	466	147	74.1
	出水郡医師会広域医療センター	323	194	38	71.8
	社会医療法人博愛会相良病院	758	537	137	88.9
沖縄	地方独立行政法人　那覇市立病院	963	488	184	69.8
	北部地区医師会病院	225	141	7	65.8
	沖縄県立中部病院	923	524	138	71.7
	国立大学法人　琉球大学医学部附属病院	1,153	520	326	73.4

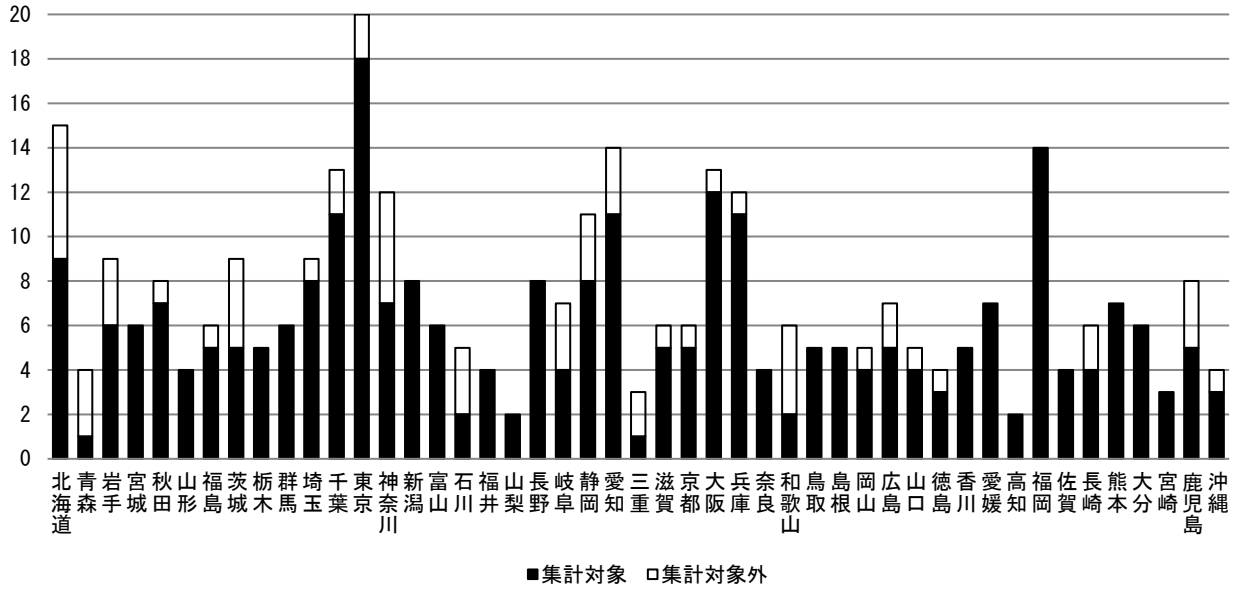


図 2-1　都道府県・施設別生存状況把握割合 2010 年診断例(338 施設)

4. 既存生存率集計との比較

(1)全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告との比較

最新の全国がん罹患モニタリング集計では、2006-8 年の全部位、男女合計について①「罹患者中死亡情報のみで登録された患者(DCO)の割合が 25%未満、あるいは「死亡情報で初めて把握された患者」(DCN)の割合が 30%未満、かつ②「罹患数と人口動態統計によるがん死亡数との比」(IM 比)が 1.5 以上の二つの条件を満たす地域のうち、全国生存率集計の基準として、住民票照会実施で診断から 5 年度の生存状況把握割合が 5%未満あるいは全死亡情報との照合を実施している 21 地域(宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、神奈川、福井、山梨、愛知、滋賀、大阪、広島、長崎、千葉、新潟、鳥取、島根、岡山、愛媛、熊本)の資料が集計対象となっている。更に、それら地域のうち、①死亡情報のみで登録された患者、②多重がんのあるケースでは第 2 がん以降、③良悪性の別不詳、大腸の粘膜がんを含む上皮内がん、④年齢不詳及び 100 歳以上の例、⑤がん死亡情報からの遡り調査による登録を除外した解析対象 2 の結果について表 2-5-1 に示した。院内がん登録 2009-2010 年例の集計では、対象は前述のとおり、2009 年または 2010 年に自施設又は他施設で診断され、初回治療がなされた例、かつ年齢が 0-99 歳、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患を含むものとする。生存率は、全体と進展度別に算出した。なお、両集計における集計対象の年齢構成や対象例の患者の状態の違い等については考慮されていない。

進展度が領域においては、若干院内がん登録集計対象者の相対生存率が高い傾向が認められたが、その他は大きな差は認められなかった。

(2)全国がん(成人病)センター協議会加盟施設(2008-2010 年)の相対生存率との比較

全がん協加盟施設の生存率共同調査では、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設 32 施設における 2008-2010 年にがんと診断された例で、5 歳未満 95 歳以上、良性腫瘍・上皮内がん・0 期・転移性腫瘍を除き、当該施設で初回治療を行った症例を対象とし、臨床病期判明率 60%以上、追跡率(生存状況把握割合)が 90%以上の施設のデータを用いて集計されている。一方で、院内がん登録 2009-2010 年生存率集計の結果としては、前述のとおり、2009 年または 2010 年に自施設又は他施設で診断され、初回治療がなされた例、年齢が 0-99 歳となっており、集計対象が若干異なっている点に留意して結果を見ていただきたい。また、院内がん登録では、総合病期別の集計となっている点にもご留意いただきたい。

また、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設と院内がん登録 2009-2010 年集計における集計対象の年齢構成や対象例の患者の状態の違い等についても考慮されていない。

参考資料

1)国立がん研究センターがん対策情報センター. 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告. 2016 年
2)全がん協加盟がん専門診療施設の診断治療症例について. 5 年生存率、10 年生存率データ更新、グラフを描写する生存率解析システム KapWeb などにて公開. プレスリリース資料. 2018 年

表 2-5-1 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告の生存率との比較:臨床進展度(進行度)別

		地域がん登録 (2006-2008)			院内がん登録 (2009-2010)		
		対象数	(%)	相対生存率	対象数	(%)	相対生存率
全がん	限局	258,046	40.0	90.4	217,231	38.2	89.9
	領域	152,806	23.7	55.1	111,189	19.6	58.3
	遠隔	104,185	16.2	13.6	76,916	13.5	17.8
	全体	644,407	100.0	62.1	568,005	100.0	66.1
胃	限局	52,030	47.9	95.9	51,422	61.8	94.9
	領域	23,571	21.7	50.0	16,164	19.4	56.6
	遠隔	17,770	16.3	5.7	13,986	16.8	7.1
	全体	108,706	100.0	64.6	83,171	100.0	71.6
大腸	限局	41,392	40.3	96.6	32,175	47.6	94.1
	領域	28,190	27.4	72.1	21,132	31.3	76.0
	遠隔	17,102	16.6	15.8	90,659	134.1	18.9
	全体	102,764	100.0	71.1	67,600	100.0	72.9
肝	限局	18,174	52.1	45.8	18,035	67.0	52.3
	領域	5,148	14.8	13.7	5,769	21.4	18.0
	遠隔	2,898	8.3	3.5	2270	8.4	2.7
	全体	34,891	100.0	32.6	26,906	100.0	40.0
肺	限局	18,830	24.8	80.6	25,212	35.2	82.2
	領域	20,235	26.7	26.7	19,832	27.7	32.2
	遠隔	25,309	33.4	4.9	24,891	34.8	6.2
	全体	75,846	100.0	31.9	71,569	100.0	40.6
女性乳房	限局	32,614	52.7	98.9	30,739	62.3	98.8
	領域	17,310	27.9	88.4	15,266	31.0	89.9
	遠隔	2,811	4.5	33.7	2,744	5.6	39.8
	全体	61,622	100.0	91.1	49,310	100.0	92.5
子宮頸部	限局	4,373	44.4	93.4	4,952	45.8	94.9
	領域	3,332	33.8	62.6	4,703	43.5	66.1
	遠隔	732	7.4	17.8	964	8.9	21.1
	全体	1,382	100.0	73.4	10,805	100.0	75.3
子宮体部	限局	5,908	56.7	94.7	7,123	62.1	95.4
	領域	2,258	21.7	71.2	3,126	27.2	73.5
	遠隔	781	7.5	20.1	1010	8.8	19.8
	全体	10,425	100.0	81.1	11,479	100.0	82.1
前立腺	限局	25,956	52.8	100.0	30,815	68.5	100.0
	領域	6,866	14.0	97.7	8,282	18.4	99.1
	遠隔	5,078	10.3	49.1	4,743	10.5	53.5
	全体	49,153	100.0	97.5	45,016	100.0	98.6

全体には、臨床進展度不詳・不明を含む

表 2-5-2 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設と院内がん登録の生存率

		全国がんセンター協議会加盟施設（2008-2010 年）		院内がん登録 （2009-10 年）	
		対象数	相対生存率	対象数	相対生存率
食道	Ⅰ期	1,515	87.4	5,921	80.9
	Ⅱ期	1,137	57.3	3,765	50.2
	Ⅲ期	1,742	30.8	4,958	24.9
	Ⅳ期	1,590	14.0	4,177	12.0
	全体	6,085	45.9	19,339	44.4
胃	Ⅰ期	14,548	97.4	52,927	94.6
	Ⅱ期	1,727	63.9	6,209	68.5
	Ⅲ期	2,060	48.3	5,927	45.1
	Ⅳ期	3,905	6.9	16,166	9.0
	全体	22,853	74.9	83,171	71.6
大腸	Ⅰ期	3,699	98.5	16,987	95.4
	Ⅱ期	3,190	89.9	17,842	88.1
	Ⅲ期	4,099	84.2	17,477	76.5
	Ⅳ期	2,998	22.0	13,087	18.7
	全体	14,706	76.6	67,600	72.9
肝	Ⅰ期	1,813	61.6	10,595	60.4
	Ⅱ期	1,174	36.0	7,695	42.8
	Ⅲ期	1,144	14.6	5,693	14.5
	Ⅳ期	559	1.7	2,276	3.5
	全体	4,766	36.4	26,906	40.0
肺、気管	Ⅰ期	8,165	82.0	26,274	81.2
	Ⅱ期	1,443	50.2	4,670	46.3
	Ⅲ期	4,542	21.3	17,664	22.3
	Ⅳ期	6,213	4.9	21,628	5.1
	全体	20,822	43.6	71,569	40.6
女性乳房	Ⅰ期	7,629	100.0	21,350	99.8
	Ⅱ期	7,288	96.0	19,046	95.9
	Ⅲ期	1,657	80.8	5,913	79.9
	Ⅳ期	809	38.5	2,482	37.2
	全体	17,494	93.9	49,310	92.5
膵臓	Ⅰ期	305	40.1	1,067	43.3
	Ⅱ期	1,155	17.2	4,174	19.3
	Ⅲ期	932	5.8	3,266	5.7
	Ⅳ期	2,508	1.5	8,594	1.7
	全体	5,005	9.2	17,617	9.6
子宮頸部	Ⅰ期	1,802	93.0	4,868	95.3
	Ⅱ期	651	79.2	1,851	78.7
	Ⅲ期	829	64.2	2,607	61.4
	Ⅳ期	492	29.2	1,326	25.2
	全体	3,838	76.2	10,805	75.3
子宮体部（子宮内膜）	Ⅰ期	2,497	96.4	6,580	96.8
	Ⅱ期	241	88.1	922	97.8
	Ⅲ期	381	66.3	1,936	97.5
	Ⅳ期	237	18.8	887	98.4
	全体	3,592	85.7	11,479	97.9
前立腺	Ⅰ期	153	100.0	757	100.0
	Ⅱ期	7,145	100.0	30,188	100.0
	Ⅲ期	1,388	100.0	6,828	100.0
	Ⅳ期	1,313	65.9	6,547	62.2
	全体	10,076	100.0	45,016	98.6
膀胱	Ⅰ期	850	86.6	6,526	88.1
	Ⅱ期	344	73.6	2,133	61.9
	Ⅲ期	263	51.0	1,174	45.2
	Ⅳ期	213	25.8	1,349	19.1
	全体	1,760	71.0	11,565	69.5

Ⅲ 2009-2010 年 5 年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物＜腫瘍＞

1. 全がん

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合(%)
2009-2010	277	568,005	232,161	15,087	97.3

(0)全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録 2009-2010 年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

(1)生存状況把握割合

対象者は 568,005 例で、その内 5 年以内に死亡していた者は 232,161 例、打ち切りが 15,087 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.3%であった。

(2)対象者の属性

本集計対象者の属性を表 3-1-1 に示す。男性が約 58%、女性が約 42%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、60 歳代、70 歳代で全体の半数以上を占めた。全体の平均年齢は、66.9 歳(標準偏差 13.4)であった。約 60%の対象者に観血的治療が実施されており、原発巣・治癒切除が約 53%であった。発見経緯別にみると、その他・不明が半数以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、前立腺、大腸の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

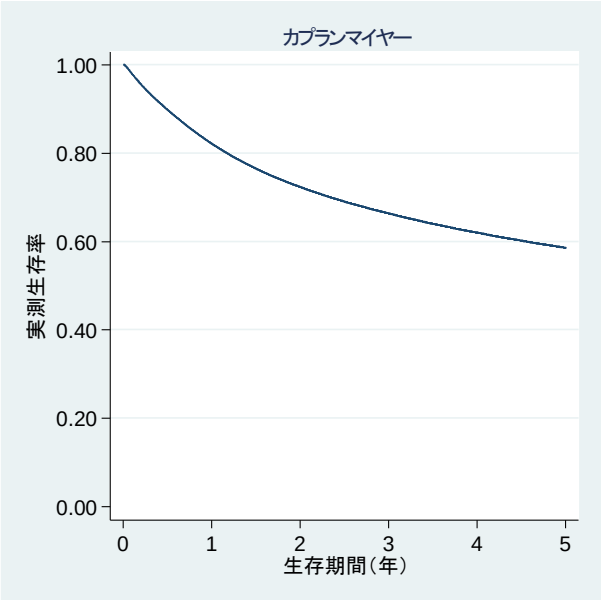
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	330,604	100.0	237,401	100.0	568,005	100.0
年齢						
0-15 歳	1,224	0.4	1,024	0.4	2,248	0.4
15-39 歳	6,769	2.0	13,279	5.6	20,048	3.5
40 歳代	10,928	3.3	23,816	10.0	34,744	6.1
50 歳代	39,629	12.0	39,490	16.6	79,119	13.9
60 歳代	103,001	31.2	59,812	25.2	162,813	28.7
70 歳代	117,804	35.6	60,751	25.6	178,555	31.4
80 歳以上	51,249	15.5	39,229	16.5	90,478	15.9
観血的治療						
有	179,203	54.2	163,117	68.7	342,320	60.3
原発巣・治癒切除	155,901	47.2	142,326	60.0	298,227	52.5
原発巣・非治癒切除	15,561	4.7	13,146	5.5	28,707	5.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	7,741	2.3	7,645	3.2	15,386	2.7
無	151,401	45.8	74,284	31.3	225,685	39.7
発見経緯						
がん検診	22,057	6.7	21,922	9.2	43,979	7.7
健康診断・人間ドック	30,524	9.2	15,055	6.3	45,579	8.0
他疾患経過観察中	102,811	31.1	54,526	23.0	157,337	27.7
その他・不明	175,212	53.0	145,898	61.5	321,110	56.5
部位						
口腔咽頭	12,756	3.9	4,957	2.1	17,713	3.1
食道	16,510	5.0	2,829	1.2	19,339	3.4
胃	58,654	17.7	24,517	10.3	83,171	14.6
結腸	23,494	7.1	19,310	8.1	42,804	7.5
直腸	16,155	4.9	8,641	3.6	24,796	4.4
大腸（再掲）	39,649	12.0	27,951	11.8	67,600	11.9
肝臓	18,522	5.6	8,384	3.5	26,906	4.7
胆嚢胆管	6,504	2.0	5,304	2.2	11,808	2.1
膵臓	9,780	3.0	7,837	3.3	17,617	3.1
喉頭	5,050	1.5	344	0.1	5,394	0.9
肺	49,574	15.0	21,995	9.3	71,569	12.6
骨軟部	1,776	0.5	1,371	0.6	3,147	0.6
皮膚	6,900	2.1	6,667	2.8	13,567	2.4
乳房	262	0.1	49,310	20.8	49,572	8.7
子宮頚部	-		10,805	4.6	10,805	1.9
子宮体部	-		11,479	4.8	11,479	2.0
子宮	-		48	0.0	48	0.0
卵巣	-		7,610	3.2	7,610	1.3
前立腺	45,016	13.6	-		45,016	7.9
膀胱	8,902	2.7	2,663	1.1	11,565	2.0
腎尿路	11,106	3.4	4,952	2.1	16,058	2.8
脳神経	5,981	1.8	7,633	3.2	13,614	2.4
甲状腺	2,660	0.8	7,319	3.1	9,979	1.8
悪性リンパ腫	11,521	3.5	9,698	4.1	21,219	3.7
多発性骨髄腫	2,277	0.7	1,873	0.8	4,150	0.7
白血病	4,900	1.5	3,480	1.5	8,380	1.5
その他の血液	3,324	1.0	2,078	0.9	5,402	1.0
その他	8,980	2.7	6,297	2.7	15,277	2.7

(3)5 年生存率

表 3-1-2 に、2009-2010 年例における実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別 5 年生存率

	生存率											
	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	53.5	62.7	62.5	62.9	65.7	70.7	70.5	70.9	58.6	66.1	66.0	66.3
年齢												
0－15 歳	82.2	82.3	80.0	84.3	79.5	79.6	77.0	82.0	81.0	81.0	79.3	82.6
15-39 歳	77.5	77.8	76.8	78.8	84.9	85.1	84.5	85.7	82.4	82.7	82.1	83.2
40 歳代	68.4	69.3	68.4	70.2	84.5	85.1	84.6	85.5	79.5	80.2	79.7	80.6
50 歳代	62.4	64.4	63.9	64.9	77.2	78.3	77.8	78.7	69.8	71.4	71.0	71.7
60 歳代	59.5	63.9	63.6	64.3	70.7	72.8	72.4	73.1	63.6	67.2	67.0	67.5
70 歳代	51.8	62.6	62.2	62.9	58.6	64.0	63.6	64.5	54.1	63.1	62.8	63.3
80 歳以上	31.9	54.3	53.6	55.0	38.5	54.6	53.9	55.3	34.7	54.4	53.9	54.9
観血的治療												
有	69.7	80.7	80.4	80.9	80.5	86.2	86.0	86.4	74.8	83.4	83.2	83.5
原発巣・治癒切除	73.1	84.8	84.5	85.0	83.8	89.7	89.5	90.0	78.2	87.2	87.0	87.4
原発巣・非治癒切除	39.8	45.6	44.7	46.5	49.2	52.6	51.7	53.5	44.1	48.9	48.2	49.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	59.2	68.2	66.9	69.4	73.3	78.0	76.9	79.0	66.2	73.1	72.3	74.0
無	34.4	41.1	40.8	41.4	32.6	35.9	35.5	36.3	33.8	39.3	39.1	39.5



2. 胃(C16)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合
2009-2010	277	83,171	31,306	2,254	97.3

(1)生存状況把握割合

集計対象者は、83,171 例で、5 年以内に死亡していた者は 31,306 例、打ち切りが 2,254 例で、生存状況把握割合は、全体で 97.3%であった。

(2)対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表 3-2-1 に示す。性別にみると、男性が 7 割を占めた。診断時の年齢は、70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、60 歳代・70 歳代で全体の約 6 割以上を占めた。全体の平均年齢は 69.5 歳(標準偏差 10.9)であった。UICC TNM 分類総合ステージを見ると、Ⅰ期が約 6 割、次いでⅣ期が約 2 割を占めた。約 8 割において観血的治療が実施されており、原発巣・治癒切除例が 7 割以上であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 3 割であった。男女の年齢構成割合、UICC TNM 分類総合ステージの分布に大きな差異はなく、男女ともに観血的治療実施割合は 80%を超えていた。

表 3-2-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	58,654	100.0	24,517	100.0	83,171	100.0
年齢						
0－15 歳	(1-3)		(1-3)		(1-3)	
15-39 歳	475	0.8	562	2.3	1,037	1.2
40 歳代	1,496	2.6	1,145	4.7	2,641	3.2
50 歳代	7,263	12.4	3,003	12.2	10,266	12.3
60 歳代	18,254	31.1	6,075	24.8	24,329	29.3
70 歳代	21,841	37.2	8,174	33.3	30,015	36.1
80 歳以上	9,324	15.9	5,556	22.7	14,880	17.9
UICC TNM 分類総合ステージ						
Ⅰ期	37,876	64.6	15,051	61.4	52,927	63.6
Ⅱ期	4,372	7.5	1,837	7.5	6,209	7.5
Ⅲ期	4,129	7.0	1,798	7.3	5,927	7.1
Ⅳ期	11,070	18.9	5,096	20.8	16,166	19.4
不詳	746	1.3	352	1.4	1,098	1.3
空欄	461	0.8	383	1.6	844	1.0
観血的治療						
有	47,562	81.1	19,669	80.2	67,231	80.8
原発巣・治癒切除	43,743	74.6	17,998	73.4	61,741	74.2
原発巣・非治癒切除	2,888	4.9	1,292	5.3	4,180	5.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	931	1.6	379	1.5	1,310	1.6
無	11,092	18.9	4,848	19.8	15,940	19.2
発見経緯						
がん検診	5,927	10.1	2,383	9.7	8,310	10.0
健康診断・人間ドック	8,064	13.7	2,450	10.0	10,514	12.6
他疾患経過観察中	18,233	31.1	6,423	26.2	24,656	29.6
その他・不明	26,430	45.1	13,261	54.1	39,691	47.7

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

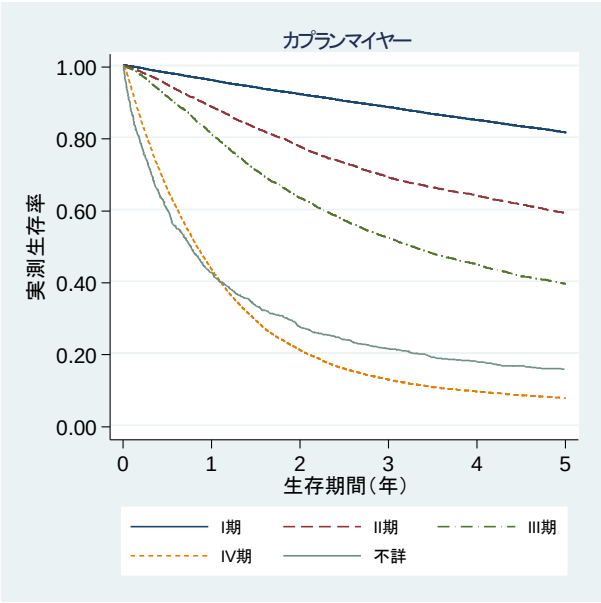
(3)5 年生存率

男女別に見た 5 年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70 歳以上では相対生存率と実測生存率の差が広がる傾向があり、男性では 70 歳以上で相対生存率と実測生存率との差が 10%を超えている。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で 86.0%であった。

表 3-2-2 属性別 5 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	61.0	71.9	71.5	72.4	64.1	70.8	70.1	71.5	61.9	71.6	71.2	72.0
年齢												
15-39 歳	60.9	61.2	56.6	65.5	63.7	63.9	59.7	67.8	62.4	62.7	59.6	65.6
40 歳代	73.4	74.3	71.9	76.5	72.1	72.5	69.8	75.1	72.8	73.5	71.8	75.2
50 歳代	72.1	74.5	73.4	75.5	71.0	72.1	70.4	73.7	71.8	73.8	72.9	74.7
60 歳代	68.6	73.7	73.0	74.4	71.4	73.5	72.3	74.7	69.3	73.7	73.0	74.3
70 歳代	59.0	71.4	70.6	72.2	66.7	72.9	71.8	74.0	61.1	71.8	71.1	72.4
80 歳以上	40.0	67.7	66.0	69.4	46.6	64.2	62.3	66.0	42.4	66.3	65.0	67.6
UICC TNM 総合ステージ*												
Ⅰ期	79.8	94.4	93.9	94.8	86.0	95.3	94.7	95.9	81.6	94.6	94.3	95.0
Ⅱ期	58.0	68.3	66.6	70.0	62.2	69.0	66.5	71.4	59.3	68.5	67.1	69.9
Ⅲ期	38.7	44.9	43.1	46.6	41.8	45.5	43.0	48.0	39.6	45.1	43.6	46.5
Ⅳ期	7.8	8.9	8.4	9.5	8.5	9.1	8.3	10.0	8.0	9.0	8.5	9.5
不詳	16.3	21.4	18.0	25.1	15.5	19.4	14.9	24.4	16.0	20.7	18.0	23.7
観血的治療												
有	73.3	86.2	85.7	86.6	77.7	85.5	84.9	86.2	74.6	86.0	85.6	86.3
原発巣・治癒切除	76.8	90.1	89.6	90.6	81.9	90.1	89.4	90.7	78.3	90.1	89.7	90.5
原発巣・非治癒切除	27.6	33.1	31.1	35.1	25.7	28.9	26.3	31.7	27.0	31.8	30.2	33.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	52.5	62.9	59.0	66.7	55.0	61.0	55.2	66.4	53.2	62.4	59.1	65.5
無	7.1	8.9	8.3	9.5	7.5	8.8	8.0	9.8	7.2	8.9	8.4	9.4

*癌腫のみ対象



3. 大腸(C18-20)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	67,600	24,207	1,735	97.4

(1)生存状況把握割合

集計対象 67,600 例のうち、5 年以内に死亡していた者は 24,207 例、打ち切りが 1,735 例で、全体として生存状況把握割合は 97.4%であった。

(2)対象者の属性

対象者の属性を表 3-3-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 6 割を占めた。診断時の年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代が多くなっていた。全体の平均年齢は、68.8 歳(標準偏差 11.7)であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体ではⅠ、Ⅱ、Ⅲ期ともに約 25%前後にばらついていた。9 割近くの対象者が観血的治療を受けており、原発巣・治癒切除例が約 80%であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 24%、がん検診が約 10%、健康診断・人間ドックが 8～9%であった。結腸、直腸別にみると、結腸が約 6 割を占め、性別にみると男性より女性では結腸の割合が多かった。

表 3-3-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	39,649	100.0	27,951	100.0	67,600	100.0
年齢						
0－14 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39 歳	594	1.5	522	1.9	1,116	1.7
40 歳代	1,601	4.0	1,330	4.8	2,931	4.3
50 歳代	5,507	13.9	3,773	13.5	9,280	13.7
60 歳代	12,640	31.9	7,270	26.0	19,910	29.5
70 歳代	13,263	33.5	8,642	30.9	21,905	32.4
80 歳以上	6,043	15.2	6,411	22.9	12,454	18.4
UICC TNM 分類総合ステージ						
Ⅰ期	10,590	26.7	6,397	22.9	16,987	25.1
Ⅱ期	10,446	26.3	7,396	26.5	17,842	26.4
Ⅲ期	9,760	24.6	7,717	27.6	17,477	25.9
Ⅳ期	7,555	19.1	5,532	19.8	13,087	19.4
不詳	520	1.3	398	1.4	918	1.4
空欄	778	2.0	511	1.8	1,289	1.9
観血的治療						
有	35,031	88.4	24,661	88.2	59,692	88.3
原発巣・治癒切除	31,062	78.3	21,719	77.7	52,781	78.1
原発巣・非治癒切除	3,078	7.8	2,271	8.1	5,349	7.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	891	2.2	671	2.4	1,562	2.3
無	4,618	11.6	3,290	11.8	7,908	11.7
発見経緯						
がん検診	3,791	9.6	2,676	9.6	6,467	9.6
健康診断・人間ドック	3,714	9.4	2,096	7.5	5,810	8.6
他疾患経過観察中	9,817	24.8	6,112	21.9	15,929	23.6
その他・不明	22,327	56.3	17,067	61.1	39,394	58.3
部位						
結腸	23,494	59.3	19,310	69.1	42,804	63.3
直腸	16,155	40.7	8,641	30.9	24,796	36.7

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

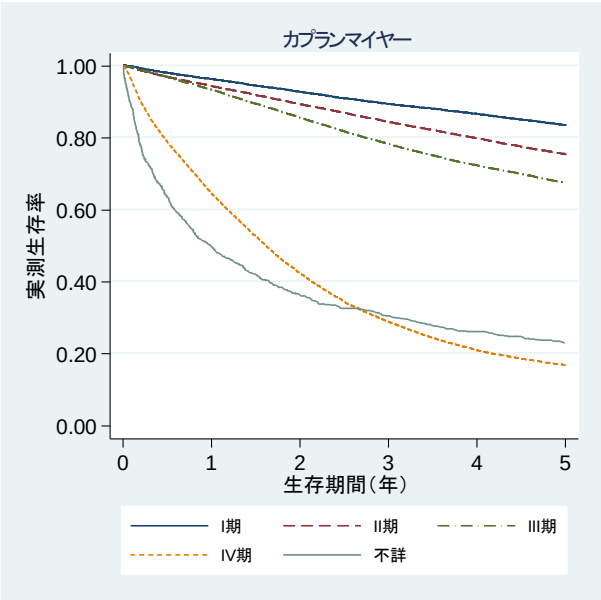
(3)5 年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－3－2 に示す。5 年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約 72～73%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少なくないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、Ⅰ期では約 95～96%、Ⅱ期では約 88%であった。観血的治療を受けた者は、相対生存率は 80%を超えており、原発巣・治癒切除例においては約 86%であった。男女とも、結腸、直腸間での相対生存率の差は認められなかった。

表 3-3-2 属性別 5 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	62.5	73.1	72.5	73.7	65.4	72.5	71.9	73.1	63.7	72.9	72.4	73.3
年齢												
15-39 歳	72.1	72.5	68.6	76.0	70.1	70.3	66.1	74.1	71.2	71.5	68.7	74.1
40 歳代	73.5	74.4	72.1	76.5	73.9	74.4	71.9	76.7	73.7	74.4	72.7	76.0
50 歳代	71.5	73.8	72.6	75.1	74.7	75.8	74.3	77.2	72.8	74.6	73.7	75.6
60 歳代	69.3	74.4	73.5	75.3	73.9	76.1	75.0	77.1	71.0	75.1	74.4	75.7
70 歳代	61.3	74.1	73.0	75.1	67.1	73.4	72.3	74.5	63.6	73.8	73.1	74.5
80 歳以上	39.1	67.3	65.2	69.4	45.7	64.6	62.8	66.3	42.4	65.9	64.5	67.2
UICC TNM 総合ステージ*												
Ⅰ期	81.2	95.1	94.2	95.9	87.2	96.1	95.1	96.9	83.5	95.4	94.8	96.1
Ⅱ期	73.5	87.8	86.8	88.8	78.1	88.5	87.4	89.6	75.4	88.1	87.4	88.8
Ⅲ期	65.4	75.8	74.7	76.9	70.1	77.3	76.2	78.5	67.5	76.5	75.7	77.3
Ⅳ期	16.8	18.9	18.0	19.9	17.2	18.4	17.3	19.5	16.9	18.7	18.0	19.5
不詳	23.8	30.3	25.7	35.2	22.1	26.2	21.4	31.2	23.1	28.5	25.2	32.1
観血的治療												
有	69.3	80.9	80.4	81.5	72.9	80.6	80.0	81.2	70.8	80.8	80.4	81.2
原発巣・治癒切除	74.0	86.5	85.9	87.0	78.0	86.3	85.6	86.9	75.6	86.4	86.0	86.8
原発巣・非治癒切除	25.9	29.7	27.9	31.5	26.8	29.2	27.2	31.3	26.3	29.5	28.2	30.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	56.3	65.8	61.9	69.5	63.0	69.8	65.6	73.7	59.2	67.6	64.7	70.3
無	10.2	12.0	11.0	13.1	8.5	9.6	8.6	10.8	9.5	11.0	10.3	11.8
部位												
結腸	61.6	73.5	72.7	74.2	64.2	71.8	71.0	72.5	62.8	72.7	72.1	73.2
直腸	63.8	72.7	71.8	73.5	68.3	74.2	73.1	75.2	65.4	73.2	72.5	73.9

*癌腫のみ対象



4. 肝(C22)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	26,906	17,232	703	97.4

(1)生存状況把握割合

対象者は、26,906 例で、そのうち 5 年以内に死亡していた者は 17,232 例、打ち切りが 703 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.4%であった。

(2)対象者の属性

対象者の属性を表 3-4-1 に示す。性別にみると、男性が約 69%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多く男性で約 38%、女性では約 46%を占めた。全体の平均年齢は、69.8 歳(標準偏差 10.3)であった。UICC TNM 総合ステージ別にみると、全体でⅠ期が約 39%、Ⅱ期が約 29%、Ⅲ期が約 21%となっていた。約 27%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 63%を占めた。

表 3-4-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	18,522	100.0	8,384	100.0	26,906	100.0
年齢						
0-15 歳	20	0.1	28	0.3	48	0.2
15-39 歳	128	0.7	61	0.7	189	0.7
40 歳代	536	2.9	136	1.6	672	2.5
50 歳代	2,405	13.0	563	6.7	2,968	11.0
60 歳代	5,929	32.0	1,990	23.7	7,919	29.4
70 歳代	7,061	38.1	3,860	46.0	10,921	40.6
80 歳以上	2,443	13.2	1,746	20.8	4,189	15.6
UICC TNM 分類総合ステージ*						
Ⅰ期	6,830	36.9	3,765	44.9	10,595	39.4
Ⅱ期	5,308	28.7	2,387	28.5	7,695	28.6
Ⅲ期	4,331	23.4	1,362	16.2	5,693	21.2
Ⅳ期	1,642	8.9	634	7.6	2,276	8.5
不詳	361	1.9	192	2.3	553	2.1
空欄	50	0.3	44	0.5	94	0.3
取扱い規約治療前ステージ						
Ⅰ期	3,465	18.7	2,288	27.3	5,753	21.4
Ⅱ期	6,262	33.8	2,914	34.8	9,176	34.1
Ⅲ期	4,371	23.6	1,533	18.3	5,904	21.9
Ⅳ期	3,754	20.3	1,312	15.6	5,066	18.8
不詳	534	2.9	257	3.1	791	2.9
空欄	135	0.7	80	1.0	215	0.8
観血的治療						
有	5,365	29.0	1,860	22.2	7,225	26.9
原発巣・治癒切除	4,759	25.7	1,666	19.9	6,425	23.9
原発巣・非治癒切除	356	1.9	124	1.5	480	1.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	250	1.3	70	0.8	320	1.2
無	13,157	71.0	6,524	77.8	19,681	73.1
発見経緯						
がん検診	127	0.7	38	0.5	165	0.6
健康診断・人間ドック	754	4.1	188	2.2	942	3.5
他疾患経過観察中	11,380	61.4	5,671	67.6	17,051	63.4
その他・不明	6,261	33.8	2,487	29.7	8,748	32.5

取扱い規約治療前ステージが 0 期の者を名含む

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)5 年生存率

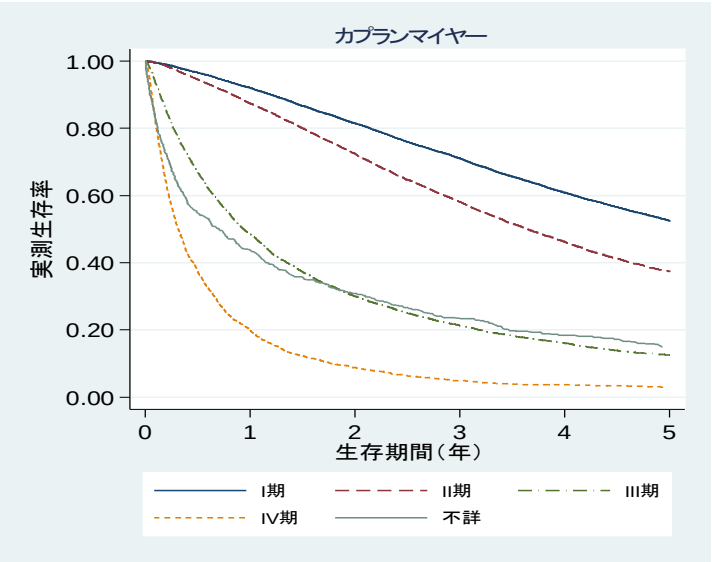
2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－4－2 に示す。全体として、相対生存率は約 40%で、男性が約 40%、女性が約 40%であった。他の部位と比較して、年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM 分類別にみると、Ⅰ期では相対生存率は全体で約 60%、男性が約 63%、女性が約 56%であるが、Ⅱ期になると男女ともに相対生存率は 45%を下回った。観血的治療を受けた者の割合は約 4 分の 1 であり、相対生存率は約 64%であった。

表 3-4-2 属性別 5 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	34.4	40.2	39.4	41.0	35.8	39.6	38.4	40.7	34.9	40.0	39.3	40.7
年齢												
0-14 歳									76.7	76.8	62.0	86.5
15-39 歳	39.5	39.7	31.0	48.3	48.5	48.6	35.5	60.5	42.5	42.7	35.4	49.8
40 歳代	40.1	40.7	36.3	44.9	51.3	51.7	42.8	59.8	42.4	42.9	39.0	46.7
50 歳代	40.1	41.4	39.3	43.4	41.7	42.3	38.1	46.4	40.4	41.6	39.7	43.4
60 歳代	38.7	41.6	40.2	42.9	44.8	46.3	44.0	48.5	40.2	42.8	41.6	43.9
70 歳代	32.8	39.8	38.4	41.1	36.3	39.7	38.1	41.4	34.1	39.7	38.7	40.8
80 歳以上	21.1	34.8	32.1	37.5	20.2	26.8	24.3	29.5	20.7	31.2	29.4	33.1
UICC TNM 総合ステージ*												
Ⅰ期	53.4	62.7	61.3	64.1	50.9	56.3	54.5	58.1	52.5	60.4	59.3	61.5
Ⅱ期	38.0	44.1	42.6	45.7	36.2	39.8	37.6	41.9	37.4	42.8	41.5	44.0
Ⅲ期	13.0	15.2	14.0	16.4	11.1	12.2	10.4	14.2	12.6	14.5	13.5	15.5
Ⅳ期	3.3	3.8	2.8	4.9	2.5	2.7	1.6	4.3	3.1	3.5	2.7	4.4
不詳	15.4	18.4	14.2	23.2	14.2	16.0	10.7	22.2	15.0	17.6	14.2	21.3
取扱い規約治療前ステージ												
Ⅰ期	55.7	64.6	62.6	66.5	55.4	60.7	58.5	63.0	55.6	63.0	61.6	64.5
Ⅱ期	46.3	54.5	53.1	56.0	42.4	47.0	45.0	49.1	45.1	52.1	50.9	53.3
Ⅲ期	25.8	30.2	28.6	31.7	23.0	25.5	23.2	27.9	25.1	28.9	27.6	30.2
Ⅳ期	6.4	7.3	6.4	8.2	4.5	4.9	3.8	6.3	5.9	6.7	5.9	7.4
不詳	24.9	29.5	25.2	34.1	20.1	22.2	16.9	28.1	23.3	27.1	23.7	30.7
観血的治療												
有	57.0	65.3	63.8	66.8	57.3	61.7	59.2	64.1	57.1	64.3	63.0	65.6
原発巣・治癒切除	59.9	68.7	67.1	70.3	59.9	64.4	61.8	67.0	59.9	67.6	66.2	68.9
原発巣・非治癒切除	25.9	29.6	24.5	35.0	22.0	23.5	16.2	31.7	24.9	28.0	23.7	32.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	45.4	51.6	44.5	58.4	58.7	63.7	49.9	75.3	48.2	54.2	47.9	60.2
無	25.1	29.7	28.8	30.6	29.7	33.1	31.8	34.3	26.6	30.8	30.1	31.6

取扱い規約治療前ステージが 0 期の者が含まれる

*癌腫のみ対象



5. 肺（C33-34）

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	71,569	45,515	1,442	98.0

(1)生存状況把握割合

対象者は、71,569 例で、そのうち 5 年以内に死亡していた者は 45,515 例、打ち切りが 1,442 例で、全体として生存状況把握割合は 98.0%であった。

(2)対象者の属性

対象者の属性を表 3-5-1 に示す。対象者は、男性が約 70%を占め、70 歳代が最も多かった。全体の平均年齢は、69.9 歳（標準偏差 10.2）であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約 37%、次いでⅣ期が約 30%、Ⅲ期が約 25%であった。観血的治療実施を受けた者の割合は、胃や大腸と比較してやや低く、約 43%であった。原発巣・治癒切除例が約 40％であった。発見経緯をみると、健康診断・人間ドックが約 14%、がん検診が約 7%であった。組織形態でみると、小細胞癌が約 9%含まれていた。

表 3-5-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	49,574	100.0	21,995	100.0	71,569	100.0
年齢						
0-14 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39 歳	264	0.5	248	1.1	512	0.7
40 歳代	1,199	2.4	748	3.4	1,947	2.7
50 歳代	5,154	10.4	2,782	12.6	7,936	11.1
60 歳代	15,380	31.0	6,820	31.0	22,200	31.0
70 歳代	18,785	37.9	7,727	35.1	26,512	37.0
80 歳以上	8,790	17.7	3,668	16.7	12,458	17.4
UICC TNM 分類総合ステージ*						
Ⅰ期	15,862	32.0	10,412	47.3	26,274	36.7
Ⅱ期	3,683	7.4	987	4.5	4,670	6.5
Ⅲ期	13,684	27.6	3,980	18.1	17,664	24.7
Ⅳ期	15,415	31.1	6,213	28.2	21,628	30.2
不詳	713	1.4	260	1.2	973	1.4
空欄	217	0.4	143	0.7	360	0.5
観血的治療						
有	18,832	38.0	11,747	53.4	30,579	42.7
原発巣・治癒切除	17,284	34.9	11,106	50.5	28,390	39.7
原発巣・非治癒切除	938	1.9	347	1.6	1,285	1.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	610	1.2	294	1.3	904	1.3
無	30,742	62.0	10,248	46.6	40,990	57.3
発見経緯						
がん検診	3,176	6.4	2,081	9.5	5,257	7.3
健康診断・人間ドック	6,315	12.7	3,342	15.2	9,657	13.5
他疾患経過観察中	17,439	35.2	7,698	35.0	25,137	35.1
その他・不明	22,644	45.7	8,874	40.3	31,518	44.0
組織形態						
小細胞癌	5,405	10.9	1,089	5.0	6,494	9.1
非小細胞癌	44,169	89.1	20,906	95.0	65,075	90.9

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)5 年生存率

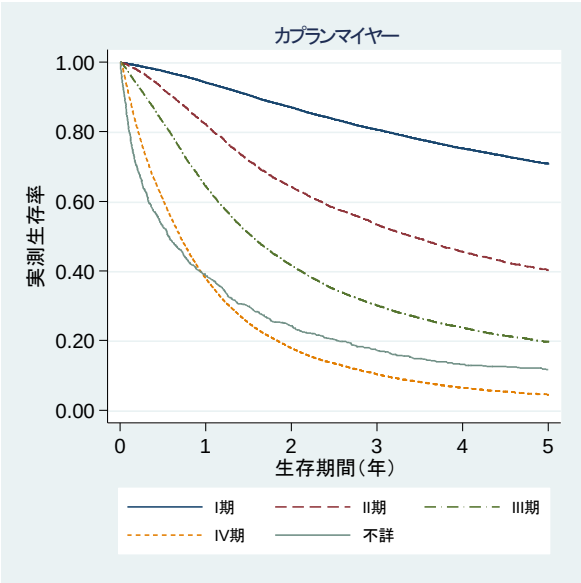
2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－5－2 に示す。全体での 5 年相対生存率は、約 41%、男性が約 34%、女性が約 56%であった。男性と比較して女性では、UICC TNM 分類総合ステージの Ⅰ 期の割合が多く、年齢分布をみると 70 歳代が若干少ないものの、UICC TNM 分類総合ステージ別にみても、男性より女性において実測生存率、相対生存率ともにやや高くなっていた。年代による実測生存率と相対生存率の差は、肝と同様、胃や大腸と比較して小さかった。

UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体で Ⅰ 期が約 81%であるのに対し、Ⅱ 期以降では 50%以下と低くなっている。観血的治療の実施割合は、全体で 40%程度であるが、相対生存率は約 78%であった。また、組織形態別にみると、小細胞癌では非小細胞癌と比較して相対生存率が低い傾向が認められた。

表 3-5-2 属性別 5 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	28.7	33.8	33.3	34.3	51.2	55.5	54.7	56.2	35.6	40.6	40.2	41.0
年齢												
15-39 歳	48.0	48.2	42.0	54.3	53.2	53.4	46.9	59.5	50.6	50.8	46.3	55.1
40 歳代	41.1	41.6	38.7	44.4	57.3	57.7	54.0	61.2	47.3	47.8	45.5	50.1
50 歳代	38.8	40.1	38.7	41.5	59.1	60.0	58.1	61.9	46.0	47.2	46.0	48.3
60 歳代	34.3	36.8	36.0	37.6	58.3	60.0	58.8	61.2	41.6	44.1	43.4	44.7
70 歳代	26.8	32.5	31.7	33.3	51.2	55.8	54.6	57.1	33.9	39.5	38.8	40.2
80 歳以上	14.8	24.5	23.3	25.8	30.7	41.2	39.2	43.3	19.5	29.8	28.7	30.8
UICC TNM 総合ステージ*												
Ⅰ期	61.5	73.5	72.6	74.4	85.4	92.4	91.7	93.1	71.0	81.2	80.6	81.9
Ⅱ期	37.5	43.8	41.9	45.6	51.1	55.2	51.8	58.6	40.4	46.3	44.6	47.9
Ⅲ期	17.1	19.6	18.9	20.3	29.0	31.3	29.7	32.8	19.7	22.3	21.6	22.9
Ⅳ期	3.1	3.6	3.3	3.9	8.1	8.7	7.9	9.4	4.5	5.1	4.7	5.4
不詳	9.0	12.1	9.4	15.2	19.2	23.2	17.6	29.3	11.7	15.2	12.6	17.9
観血的治療												
有	61.6	71.4	70.6	72.2	82.9	88.8	88.0	89.5	69.8	78.2	77.7	78.8
原発巣・治癒切除	63.8	73.9	73.1	74.8	84.4	90.3	89.6	91.0	71.9	80.5	79.9	81.1
原発巣・非治癒切除	29.5	34.0	30.6	37.4	49.5	53.2	47.4	58.8	34.9	39.3	36.3	42.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	48.9	56.6	51.9	61.1	67.2	71.9	65.8	77.3	54.9	61.7	58.0	65.3
無	8.2	10.0	9.6	10.3	14.2	15.9	15.1	16.7	9.7	11.5	11.1	11.8
組織形態												
小細胞癌	9.9	11.4	10.5	12.3	14.1	15.0	12.8	17.3	10.6	12.0	11.1	12.9
非小細胞癌	31.0	36.5	36.0	37.1	53.1	57.5	56.8	58.3	38.1	43.5	43.0	43.9

*癌腫のみ対象



6. 女性乳房(C50)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	49,310	5,735	1,090	97.8

(1)生存状況把握割合

集計対象は、49,310 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 5,735 例、打ち切りが 1,090 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 97.8%であった。

(2)対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、60 歳代が約 26%と最も多く、次いで 50 歳代が約 24%、40 歳代が約 21%であった。また、35 歳未満は、約 2%であった。全体の平均年齢は、58.9 歳(標準偏差 13.4)であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、Ⅰ期が最も多く約 43%、次いでⅡ期が約 39%であった。観血的治療の実施割合は、90%以上であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診、健康診断・人間ドックがやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

	対象数	(%)
全体	49,310	100.0
年齢		
15-39 歳	3,362	6.8
40 歳代	10,340	21.0
50 歳代	11,613	23.6
60 歳代	12,937	26.2
70 歳代	7,443	15.1
80 歳以上	3,615	7.3
35 歳未満（再掲）	1,163	2.4
UICC TNM 分類総合ステージ*		
Ⅰ期	21,350	43.3
Ⅱ期	19,046	38.6
Ⅲ期	5,913	12.0
Ⅳ期	2,482	5.0
不詳	375	0.8
空欄	144	0.3
観血的治療		
有	44,564	90.4
原発巣・治癒切除	40,544	82.2
原発巣・非治癒切除	2,093	4.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	1,927	3.9
無	4,746	9.6
発見経緯		
がん検診	10,760	21.8
健康診断・人間ドック	2,690	5.5
他疾患経過観察中	5,605	11.4
その他・不明	30,255	61.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

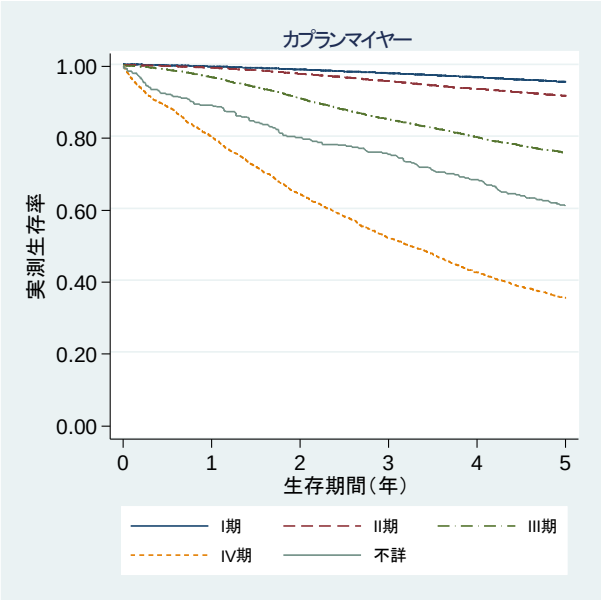
(3)5 年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－6－2 に示す。全体として、相対生存率は約 93%であり、どの年代においても相対生存率は約 90%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、Ⅰ期、Ⅱ期では相対生存率は 95%以上であるが、Ⅳ期では約 37%にとどまった。なお、観血的治療実施を受けた者では、治癒切除・非治癒切除に関わらず相対生存率は約 90%以上であった。

表 3-6-2 属性別 5 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	88.2	92.5	92.2	92.8
年齢				
15-39 歳	90.5	90.7	89.7	91.7
40 歳代	93.5	94.1	93.6	94.6
50 歳代	90.3	91.6	91.0	92.1
60 歳代	90.0	92.6	92.1	93.1
70 歳代	84.5	91.9	91.0	92.8
80 歳以上	65.4	92.9	90.7	95.2
35 歳未満（再掲）	89.4	89.6	87.6	91.2
UICC TNM 総合ステージ*				
Ⅰ期	95.3	99.8	99.5	100.0
Ⅱ期	91.6	95.9	95.5	96.3
Ⅲ期	75.8	79.9	78.7	81.0
Ⅳ期	35.6	37.2	35.2	39.2
不詳	61.2	70.4	64.4	75.9
観血的治療				
有	92.3	96.4	96.2	96.7
原発巣・治癒切除	92.8	96.9	96.6	97.1
原発巣・非治癒切除	86.5	91.1	89.5	92.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	88.6	92.8	91.3	94.3
無	49.7	54.1	52.6	55.7

*癌腫のみ対象


カプランマイヤー
1.00
0.80
0.60
0.40
0.20
0.00
実測生存率
0
1
2
3
4
5
生存期間（年）
I期
II期
III期
IV期
不詳

7. 食道(C15)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	19,339	11,595	436	98.4

（1）生存状況把握割合

集計対象は、19,339 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 11,595 例、打ち切りが 436 例であった。全体として生存状況把握割合は、98.4%であった。

（2）対象者の属性

集計対象の属性を表 3－7－1 に示す。性別をみると、男性が約 85%、女性が約 15%であった。年齢分布をみると、60 歳代が約 38%と最も多く、次いで 70 歳代が約 33%、50 歳代が約 15%となっていた。全体の平均年齢は、68.1 歳（標準偏差 9.3）であった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、Ⅰ期が最も多く約 31%、次いでⅢ期が約 26%、Ⅳ期が約 22%、Ⅱ期が約 20%であった。観血的治療の実施割合は全体で約 48%であり、原発巣・治癒切除例が約 42%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 24%であった。

表 3－7－1　対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	16,510	100.0	2,829	100.0	19,339	100.0
年齢						
15-39 歳	32	0.2	15	0.5	47	0.2
40 歳代	295	1.8	103	3.6	398	2.1
50 歳代	2,490	15.1	446	15.8	2,936	15.2
60 歳代	6,491	39.3	944	33.4	7,435	38.4
70 歳代	5,488	33.2	845	29.9	6,333	32.7
80 歳以上	1,714	10.4	476	16.8	2,190	11.3
UICC TNM 分類総合ステージ						
Ⅰ期	5,152	31.2	769	27.2	5,921	30.6
Ⅱ期	3,133	19.0	632	22.3	3,765	19.5
Ⅲ期	4,186	25.4	772	27.3	4,958	25.6
Ⅳ期	3,619	21.9	558	19.7	4,177	21.6
不詳	345	2.1	63	2.2	408	2.1
空欄	75	0.5	35	1.2	110	0.6
観血的治療						
有	7,822	47.4	1,372	48.5	9,194	47.5
原発巣・治癒切除	6,857	41.5	1,214	42.9	8,071	41.7
原発巣・非治癒切除	627	3.8	92	3.3	719	3.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	338	2.0	66	2.3	404	2.1
無	8,688	52.6	1,457	51.5	10,145	52.5
発見経緯						
がん検診	709	4.3	106	3.7	815	4.2
健康診断・人間ドック	1,408	8.5	134	4.7	1,542	8.0
他疾患経過観察中	4,100	24.8	549	19.4	4,649	24.0
その他・不明	10,293	62.3	2,040	72.1	12,333	63.8

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

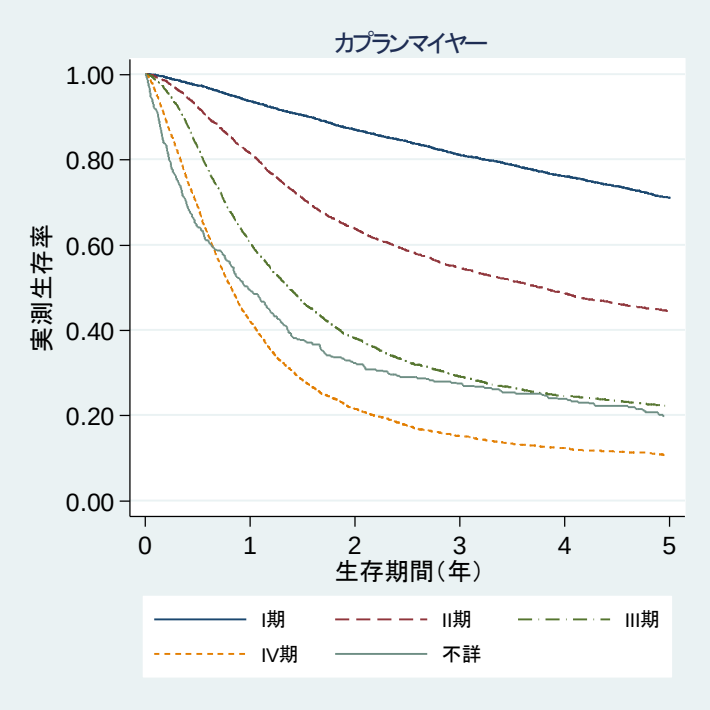
（３）５年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－7－2 に示す。全体での相対生存率は、約 44%であり、男性が約 44%、女性が約 50%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、5 年相対生存率はⅠ期が約 81%、Ⅱ期が約 50%、Ⅲ期が約 25%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約 69%であり、原発巣・治癒切除例の相対生存率は約 72%であった。男女における併存症など対象者の個人属性の違いが定かではないが、UICC TNM 分類総合ステージ別、年齢別に見ても男性より女性でやや相対生存率が高い傾向が認められた。

表 3－7－2　属性別 5 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	38.1	43.5	42.6	44.3	45.9	49.3	47.3	51.3	39.2	44.4	43.6	45.1
年齢												
15-39 歳	49.7	49.9	31.0	66.3					48.7	48.9	33.6	62.6
40 歳代	41.2	41.7	35.9	47.4	46.7	47.0	37.0	56.4	42.6	43.1	38.1	48.0
50 歳代	43.8	45.3	43.2	47.3	53.7	54.4	49.6	59.0	45.3	46.7	44.8	48.5
60 歳代	42.0	45.2	43.9	46.5	53.2	54.7	51.4	58.0	43.5	46.4	45.2	47.6
70 歳代	36.5	43.8	42.2	45.3	45.7	49.7	46.0	53.4	37.7	44.6	43.1	46.0
80 歳以上	19.2	31.8	28.7	35.0	23.8	32.2	27.0	37.6	20.2	32.0	29.3	34.7
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	70.0	80.3	78.9	81.8	78.6	84.3	81.0	87.3	71.1	80.9	79.5	82.2
Ⅱ期	42.8	48.9	46.9	50.9	52.3	56.7	52.4	60.9	44.4	50.2	48.4	52.0
Ⅲ期	20.8	23.4	22.0	24.8	30.7	32.8	29.3	36.3	22.3	24.9	23.6	26.2
Ⅳ期	10.0	11.2	10.1	12.4	16.0	16.9	13.8	20.3	10.8	12.0	11.0	13.1
不詳	16.7	20.5	15.9	25.7	37.9	44.5	30.4	58.6	19.8	24.2	19.5	29.1
観血的治療												
有	60.9	68.2	67.0	69.4	68.1	72.0	69.3	74.6	61.9	68.8	67.7	69.9
原発巣・治癒切除	63.7	71.3	70.0	72.6	70.8	74.9	72.1	77.5	64.8	71.9	70.7	73.0
原発巣・非治癒切除	34.9	39.8	35.5	44.0	30.2	32.2	22.5	42.4	34.3	38.8	34.8	42.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	50.8	57.3	51.1	63.2	70.6	74.1	60.7	84.1	53.9	60.0	54.5	65.3
無	17.3	20.5	19.5	21.4	24.7	27.4	25.0	30.0	18.4	21.5	20.6	22.4

*癌腫が対象



8. 膵臓(C25)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	17,617	15,835	362	97.9

（1）生存状況把握割合

集計対象は、17,617 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 15,835 例、打ち切りが 362 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 97.9%であった。

（2）対象者の属性

集計対象の属性を表 3－8－1 に示す。集計対象者は、男性が約 56%、女性が約 44%であった。診断時の年齢分布は、70 歳代が約 35%と最も多く、次いで 60 歳代が約 31%、80 歳以上が約 19%であった。全体の平均年齢は、69.8 歳（標準偏差 10.7）であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、Ⅳ期が最も多く約 49%、次いでⅡ期が約 24%、Ⅲ期が約 19%であった。観血的治療の実施割合は、約 29%で男女による差はほとんどなかった。原発巣・治癒切除例が約 22%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 28%であった。

表 3－8－1　対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	9,780	100.0	7,837	100.0	17,617	100.0
年齢						
0－14 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39 歳	73	0.7	73	0.9	146	0.8
40 歳代	346	3.5	198	2.5	544	3.1
50 歳代	1,292	13.2	799	10.2	2,091	11.9
60 歳代	3,270	33.4	2,136	27.3	5,406	30.7
70 歳代	3,365	34.4	2,807	35.8	6,172	35.0
80 歳以上	1,432	14.6	1,822	23.2	3,254	18.5
UICC TNM 分類総合ステージ						
Ⅰ期	588	6.0	479	6.1	1,067	6.1
Ⅱ期	2,335	23.9	1,839	23.5	4,174	23.7
Ⅲ期	1,784	18.2	1,482	18.9	3,266	18.5
Ⅳ期	4,796	49.0	3,798	48.5	8,594	48.8
不詳	232	2.4	197	2.5	429	2.4
空欄	45	0.5	42	0.5	87	0.5
観血的治療						
有	2,867	29.3	2,152	27.5	5,019	28.5
原発巣・治癒切除	2,183	22.3	1,682	21.5	3,865	21.9
原発巣・非治癒切除	482	4.9	344	4.4	826	4.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	202	2.1	126	1.6	328	1.9
無	6,913	70.7	5,685	72.5	12,598	71.5
発見経緯						
がん検診	90	0.9	57	0.7	147	0.8
健康診断・人間ドック	443	4.5	261	3.3	704	4.0
他疾患経過観察中	2,916	29.8	2,056	26.2	4,972	28.2
その他・不明	6,331	64.7	5,463	69.7	11,794	66.9

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

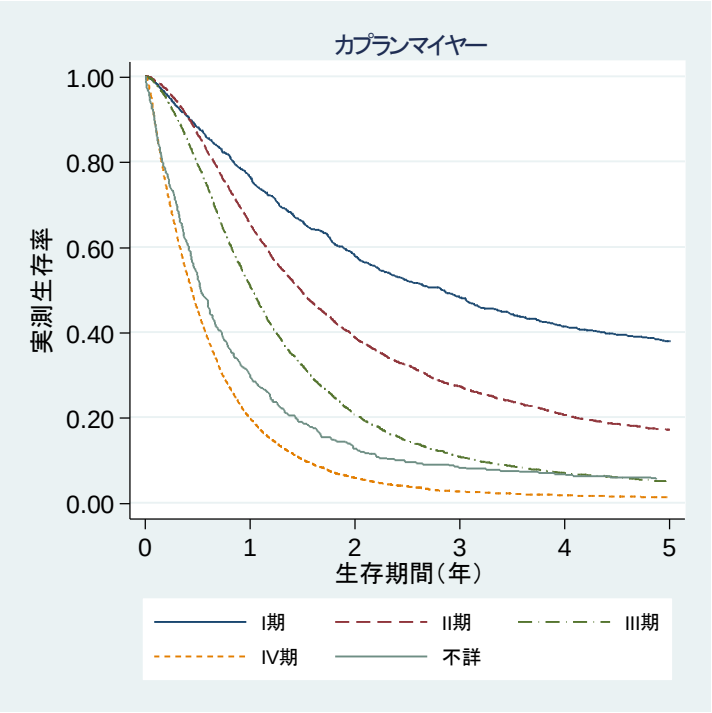
（３）５年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－8－2 に示す。5 年相対生存率は、全体で約 10%、男性が約 10%、女性が約 9%であった。肝や肺と同様、実測生存率と相対生存率の差は他の部位と比較して小さく、予後が比較的良くないがんと考えられる。年代別にみても、実測生存率、相対生存率はほぼ同程度であった。但し、40 歳以下では対象者数がやや少なく 95%信頼区間の幅が広くなっている点に留意する必要がある。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、相対生存率はⅠ期が約 43%、Ⅱ期が約 19%、Ⅲ期が約 6%、Ⅳ期が約 2%であった。観血治療を受けた者の相対生存率は約 29%であり、その中で原発巣・治癒切除例のみをみても相対生存率は約 32%にとどまった。

表 3－8－2　属性別 5 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	8.6	9.9	9.3	10.6	8.5	9.2	8.5	9.9	8.6	9.6	9.1	10.0
年齢												
15-39 歳	35.5	35.7	24.6	46.9	28.2	28.2	18.3	39.0	31.8	31.9	24.4	39.8
40 歳代	18.6	18.8	14.8	23.2	16.7	16.8	11.8	22.6	17.9	18.1	14.9	21.5
50 歳代	10.1	10.4	8.8	12.2	9.8	9.9	7.9	12.2	10.0	10.2	8.9	11.6
60 歳代	9.5	10.2	9.2	11.4	10.4	10.7	9.4	12.1	9.9	10.4	9.6	11.3
70 歳代	7.8	9.4	8.4	10.6	8.8	9.6	8.5	10.8	8.3	9.5	8.7	10.3
80 歳以上	3.3	5.5	4.1	7.3	3.2	4.4	3.3	5.6	3.3	4.9	4.0	5.9
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	37.6	44.3	39.7	48.9	38.1	42.0	37.2	46.9	37.9	43.3	39.9	46.6
Ⅱ期	16.9	19.4	17.7	21.2	17.6	19.1	17.2	21.1	17.2	19.3	18.0	20.6
Ⅲ期	6.1	6.8	5.6	8.2	4.1	4.4	3.4	5.6	5.2	5.7	4.9	6.6
Ⅳ期	1.7	1.9	1.5	2.4	1.3	1.3	1.0	1.8	1.5	1.7	1.4	2.0
不詳	4.6	5.9	3.0	10.2	7.3	8.9	5.0	14.2	5.8	7.3	4.8	10.5
観血的治療												
有	25.2	28.5	26.7	30.4	27.0	28.9	26.9	31.0	26.0	28.7	27.4	30.1
原発巣・治癒切除	28.9	32.7	30.5	34.8	29.9	32.0	29.6	34.4	29.3	32.4	30.8	34.0
原発巣・非治癒切除	9.6	10.9	8.1	14.3	11.3	12.0	8.7	16.0	10.3	11.4	9.2	13.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	21.4	24.6	18.4	31.4	31.4	33.8	25.1	42.8	25.2	28.1	23.0	33.6
無	1.6	1.9	1.5	2.2	1.2	1.4	1.1	1.7	1.4	1.6	1.4	1.9

*癌腫が対象



9. 子宮頸部(C53)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	10,805	2,913	414	96.2

（1）生存状況把握割合

集計対象は、10,0805 例で、5 年以内に亡くなっていた者は 2,913 例、打ち切りが 414 例であった。集計対象全体の生存状況把握割合は 96.2%であった。

（2）対象者の属性

集計対象の属性を表 3－9－1 に示す。診断時の年齢を見ると、15～39 歳、40 歳代と比較的若い年代が多かった。全体の平均年齢は、54.0（標準偏差 16.1）であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、Ⅰ期が約 45%と最も多く、次いでⅢ期が約 24%、Ⅱ期が約 17%であった。観血的治療の実施割合は約 58%で、原発巣・治癒切除例が約 51%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 16%、健康診断・人間ドックが約 3%であった。

表 3－9－1　対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	10,805	100.0
年齢		
0-14 歳	(1-3)	
15-39 歳	2,375	22.0
40 歳代	2,414	22.3
50 歳代	2,005	18.6
60 歳代	1,939	17.9
70 歳代	1,227	11.4
80 歳以上	844	7.8
UICC TNM 分類総合ステージ		
Ⅰ期	4,868	45.1
Ⅱ期	1,851	17.1
Ⅲ期	2,607	24.1
Ⅳ期	1,326	12.3
不詳	104	1.0
空欄	49	0.5
観血的治療		
有	6,264	58.0
原発巣・治癒切除	5,507	51.0
原発巣・非治癒切除	475	4.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	282	2.6
無	4,541	42.0
発見経緯		
がん検診	1,777	16.4
健康診断・人間ドック	330	3.1
他疾患経過観察中	1,004	9.3
その他・不明	7,694	71.2

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

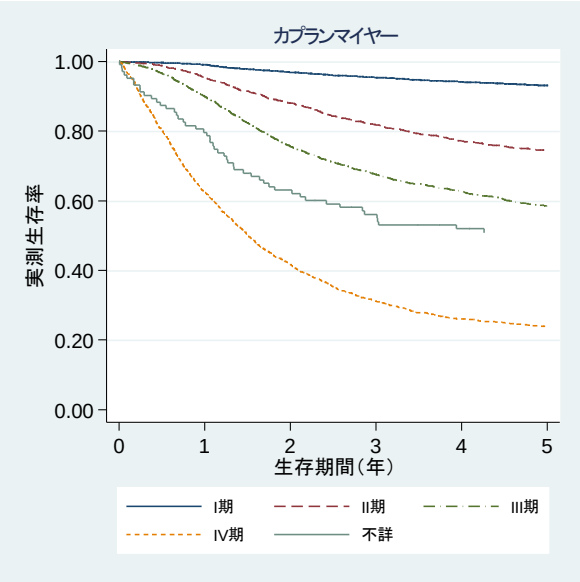
（3）5 年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－9－2 に示す。全体として、実測生存率が約 73%、相対生存率が約 75%であった。70 歳、80 歳以上では、実測生存率と相対生存率に 5%以上の差を認められるものの、その他の年代では差は 5%以下であった。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、Ⅰ期が約 95%、Ⅱ期が約 79%、Ⅲ期が約 61%、Ⅳ期が約 25%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は約 90%であり、その内、原発巣・治癒切除例では約 92%であった。

表 3－9－2　属性別 5 年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	72.6	75.3	74.4	76.1
年齢				
15-39 歳	85.9	86.1	84.6	87.4
40 歳代	81.3	81.8	80.1	83.3
50 歳代	72.5	73.5	71.4	75.4
60 歳代	71.6	73.6	71.5	75.6
70 歳代	59.0	64.1	61.0	67.0
80 歳以上	32.7	45.9	41.4	50.5
UICC TNM 分類総合ステージ*				
Ⅰ期	93.2	95.3	94.5	96.0
Ⅱ期	74.7	78.7	76.5	80.8
Ⅲ期	58.5	61.4	59.4	63.4
Ⅳ期	23.9	25.2	22.8	27.7
不詳	50.9	55.2	44.2	65.3
観血的治療				
有	88.8	90.1	89.2	90.8
原発巣・治癒切除	90.2	91.5	90.6	92.2
原発巣・非治癒切除	74.7	76.0	71.7	79.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	84.1	85.6	80.6	89.5
無	50.1	54.1	52.5	55.7

*癌腫のみ対象


カプランマイヤー
1.00
0.80
0.60
0.40
0.20
0.00
実測生存率
0
1
2
3
4
5
生存期間（年）
I期
II期
III期
IV期
不詳

10. 子宮体部（C54）

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	11,479	2,389	245	97.9

（１）生存状況把握割合

集計対象は、11,479 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 2,389 例、打ち切りが 245 例であった。集計対象全体として、生存状況把握割合は 97.9%であった。

（２）対象者の属性

集計対象の属性を表 3－10－1 に示す。診断時の年齢を見ると、50 歳代が 3 割以上と最も多く、次いで 60 歳代が約 29%、70 歳代が約 15%であった。全体の平均年齢は、59.6 歳（標準偏差 12.3）であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、Ⅰ期が約 57%、Ⅱ期が約 8%、Ⅲ期が約 17%、Ⅳ期が約 8%であった。観血的治療の実施割合は、約 91%であり、原発巣・治癒切除例が約 79%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 14%であった。

表 3－10－1　対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	11,479	100.0
年齢		
15-39 歳	644	5.6
40 歳代	1,590	13.9
50 歳代	3,576	31.2
60 歳代	3,280	28.6
70 歳代	1,704	14.8
80 歳以上	685	6.0
UICC TNM 分類総合ステージ		
Ⅰ期	6,580	57.3
Ⅱ期	922	8.0
Ⅲ期	1,936	16.9
Ⅳ期	887	7.7
不詳	125	1.1
空欄	1,029	9.0
観血的治療		
有	10,428	90.8
原発巣・治癒切除	9,066	79.0
原発巣・非治癒切除	630	5.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	732	6.4
無	1,051	9.2
発見経緯		
がん検診	891	7.8
健康診断・人間ドック	251	2.2
他疾患経過観察中	1,547	13.5
その他・不明	8,790	76.6

*癌腫のみ対象（子宮内膜）、癌腫以外は空欄へ変換

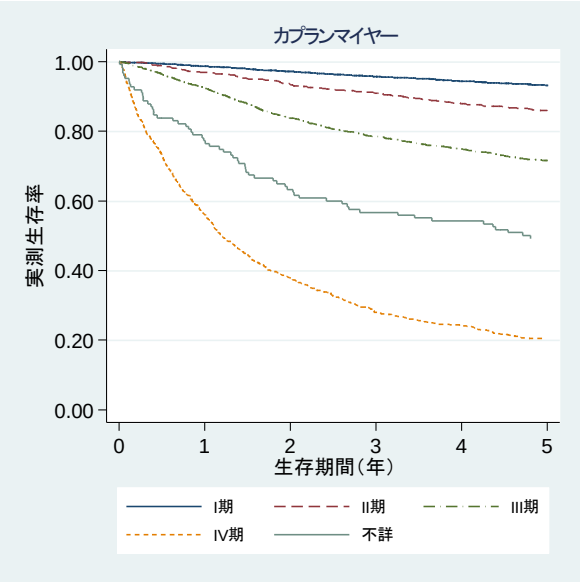
（３）5 年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－10－2 に示す。全体での 5 年実測生存率は約 79%、相対生存率が約 82%であった。年齢別にみると、70 歳、80 歳以上を除き相対生存率は 80%を超えていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、Ⅰ期が約 97%、Ⅱ期が約 90%、Ⅲ期が約 74%、Ⅳ期が約 21%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約 87%であり、その中で原発巣・治癒切除例では 90%を超えていた。

表 3－10－2　属性別 5 年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	79.0	82.1	81.3	82.8
年齢				
15-39 歳	90.2	90.4	87.8	92.5
40 歳代	89.3	89.9	88.2	91.3
50 歳代	85.7	86.9	85.7	88.0
60 歳代	78.2	80.4	78.9	81.8
70 歳代	67.2	73.0	70.5	75.4
80 歳以上	42.7	58.2	53.0	63.2
UICC TNM 総合ステージ*				
Ⅰ期	93.3	96.8	96.1	97.4
Ⅱ期	86.0	89.9	87.3	92.0
Ⅲ期	71.6	74.0	71.9	76.0
Ⅳ期	20.4	21.3	18.5	24.1
不詳	49.3	54.1	44.1	63.4
観血的治療				
有	84.2	87.2	86.5	87.9
原発巣・治癒切除	87.6	90.7	90.0	91.4
原発巣・非治癒切除	42.4	44.0	40.0	48.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	77.5	80.6	77.2	83.5
無	27.0	29.5	26.6	32.5

*癌腫のみ対象（子宮内膜）


カプランマイヤー
1.00
0.80
0.60
0.40
0.20
0.00
実測生存率
0
1
2
3
4
5
生存期間（年）
I期
II期
III期
IV期
不詳

11. 前立腺(C61)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	45,016	7,720	1,022	97.7

（1）生存状況把握割合

集計対象は、45,016 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 7,720 例、打ち切りが 1,022 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 97.7%であった。

（2）対象者の属性

集計対象の属性を表 3－11－1 に示す。診断時の年齢は、70 歳代が約 46%、80 歳以上が約 14%で、70 歳以上が半数以上を占めた。全体の平均年齢は、71.3 歳（標準偏差 7.8）であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、Ⅱ期が最も多く約 67%であった。観血的治療の実施割合は、約 29%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 17%、健康診断・人間ドックが約 11%であった。

表 3－11－1　対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	45,016	100.0
年齢		
0-14 歳	(1-3)	
15-39 歳	12	0.0
40 歳代	125	0.3
50 歳代	2,749	6.1
60 歳代	15,131	33.6
70 歳代	20,543	45.6
80 歳以上	6,455	14.3
UICC TNM 分類総合ステージ		
Ⅰ期	757	1.7
Ⅱ期	30,188	67.1
Ⅲ期	6,828	15.2
Ⅳ期	6,547	14.5
不詳	602	1.3
空欄	94	0.2
観血的治療		
有	13,254	29.4
原発巣・治癒切除	11,038	24.5
原発巣・非治癒切除	1,468	3.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	748	1.7
無	31,762	70.6
発見経緯		
がん検診	7,447	16.5
健康診断・人間ドック	5,148	11.4
他疾患経過観察中	15,497	34.4
その他・不明	16,924	37.6

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

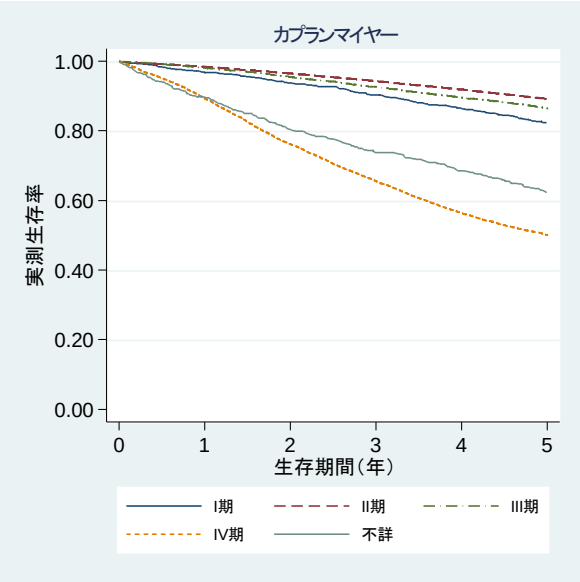
（3）5 年生存率

2009-2010 年診断例の 5 年生存率を表 3－11－2 に示す。全体として、5 年実測生存率は約 83%、相対生存率が約 99%であった。年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなり、高齢になるほど前立腺がん以外の要因で死亡している例が多いと考えられた。5 年相対生存率は、どの年代もほど 90%程度と高い。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、Ⅰ期からⅢ期では、相対生存率は 100%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、治癒切除、非治癒切除例に関わらず 100%であった。

表 3－11－2　属性別 5 年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	82.7	98.6	98.2	99.0
年齢				
40 歳代	87.7	88.9	81.6	93.7
50 歳代	93.2	96.5	95.4	97.4
60 歳代	91.5	98.7	98.2	99.2
70 歳代	83.0	99.9	99.3	100.0
80 歳以上	56.3	94.9	92.8	96.9
UICC TNM 総合ステージ				
Ⅰ期	82.5	100.0	97.4	100.0
Ⅱ期	89.3	100.0	100.0	100.0
Ⅲ期	86.6	100.0	100.0	100.0
Ⅳ期	50.0	62.2	60.7	63.7
不詳	62.2	85.2	79.7	90.4
観血的治療				
有	94.2	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	94.8	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切除	91.9	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	89.7	100.0	98.5	100.0
無	77.8	96.0	95.4	96.5

*癌腫のみ対象


カプランマイヤー
1.00
0.80
0.60
0.40
0.20
0.00
実測生存率
0
1
2
3
4
5
生存期間（年）
I期
II期
III期
IV期
不詳

12. 膀胱（C67）

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合（%）
2009-2010	277	11,565	4,943	293	97.5

（１）生存状況把握割合

集計対象は、11,565 例で、5 年以内に亡くなっていた者が 4,943 例、打ち切りが 293 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.5%であった。

（２）対象者の属性

集計対象の属性を表 3－12－1 に示す。性別でみると、男性が約 77%、女性が約 23%であった。診断時の年齢分布をみると、70 歳代が最も多く約 35%、80 歳以上が約 30%、60 歳代が約 24%であった。全体の平均年齢は、72.7 歳（標準偏差 11.0）であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、Ⅰ期が約 56%と半数以上を占めた。観血的治療の実施割合は、約 88%で、原発巣・治癒切除例約 67%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 24%であった。

表 3－12－1　対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	8,902	100.0	2,663	100.0	11,565	100.0
年齢						
0-14 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39 歳	63	0.7	18	0.7	81	0.7
40 歳代	189	2.1	56	2.1	245	2.1
50 歳代	839	9.4	173	6.5	1,012	8.8
60 歳代	2,287	25.7	499	18.7	2,786	24.1
70 歳代	3,128	35.1	895	33.6	4,023	34.8
80 歳以上	2,394	26.9	1,019	38.3	3,413	29.5
UICC TNM 分類総合ステージ						
Ⅰ期	5,190	58.3	1,336	50.2	6,526	56.4
Ⅱ期	1,604	18.0	529	19.9	2,133	18.4
Ⅲ期	879	9.9	295	11.1	1,174	10.2
Ⅳ期	959	10.8	390	14.6	1,349	11.7
不詳	235	2.6	98	3.7	333	2.9
空欄	35	0.4	15	0.6	50	0.4
観血的治療						
有	7,902	88.8	2,227	83.6	10,129	87.6
原発巣・治癒切除	6,123	68.8	1,624	61.0	7,747	67.0
原発巣・非治癒切除	1,030	11.6	370	13.9	1,400	12.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	749	8.4	233	8.7	982	8.5
無	1,000	11.2	436	16.4	1,436	12.4
発見経緯						
がん検診	69	0.8	21	0.8	90	0.8
健康診断・人間ドック	254	2.9	46	1.7	300	2.6
他疾患経過観察中	2,171	24.4	628	23.6	2,799	24.2
その他・不明	6,408	72.0	1,968	73.9	8,376	72.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

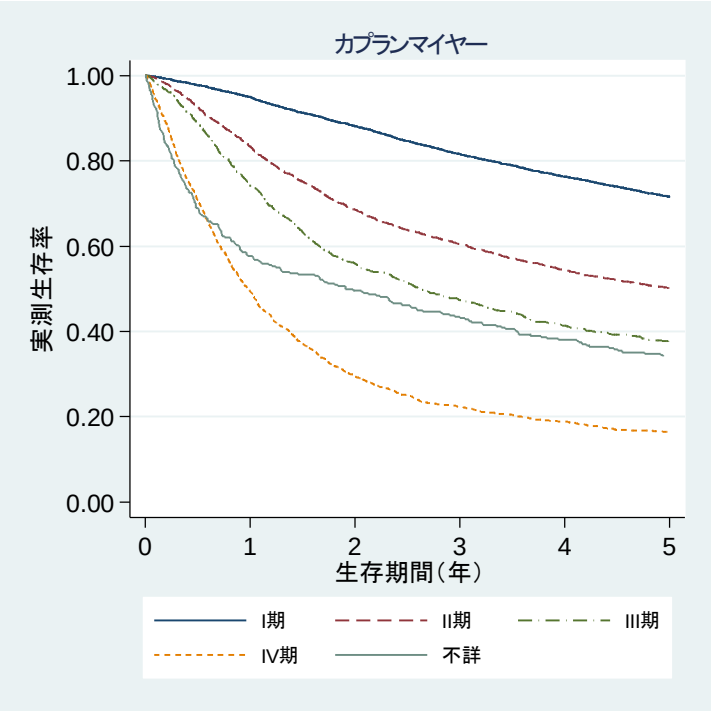
（３）５年生存率

2009-2010 年診断例の５年生存率を表３－12－２に示す。全体の５年実測生存率は約 57%、相対生存率が約 70%であった。70 歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては 70 歳代まで 70%以上であるが、80 歳以上では約 57%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でⅠ期が約 88%、Ⅱ期が約 62%、Ⅲ期が約 45%、Ⅳ期が約 19%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約 76%で、その中で原発巣・治癒切除例では約 82%であった。

表３－12－２　属性別５年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	58.1	72.0	70.7	73.3	52.1	61.2	58.9	63.4	56.7	69.5	68.4	70.6
年齢												
15-39 歳	55.1	55.4	23.4	78.8					81.7	82.0	71.3	89.1
40 歳代	87.7	88.9	81.6	93.7	83.6	84.7	78.4	89.4	81.5	82.5	76.8	86.9
50 歳代	93.2	96.5	95.4	97.4	79.6	82.3	79.2	84.9	79.6	82.0	79.2	84.4
60 歳代	91.5	98.7	98.2	99.2	69.7	75.0	72.9	77.0	69.7	74.4	72.5	76.2
70 歳代	83.0	99.9	99.3	100.5	59.9	73.0	70.9	75.1	59.3	70.8	68.9	72.6
80 歳以上	56.3	94.9	92.8	96.9	34.5	61.0	57.6	64.4	33.8	57.1	54.4	59.8
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	71.4	89.0	87.4	90.5	72.4	84.7	81.8	87.5	71.6	88.1	86.7	89.4
Ⅱ期	52.5	65.0	61.9	68.0	43.5	52.6	47.4	57.7	50.3	61.9	59.3	64.5
Ⅲ期	39.3	47.5	43.6	51.5	32.8	38.0	31.9	44.3	37.6	45.2	41.8	48.5
Ⅳ期	17.5	20.6	17.8	23.5	13.9	15.5	11.8	19.6	16.5	19.1	16.8	21.5
不詳	36.8	48.4	40.2	56.6	28.3	33.5	23.2	44.6	34.3	44.0	37.4	50.7
観血的治療												
有	62.8	77.6	76.2	78.9	59.2	69.0	66.6	71.3	62.0	75.7	74.5	76.8
原発巣・治癒切除	67.4	82.9	81.4	84.3	66.9	77.6	74.9	80.2	67.3	81.8	80.5	83.0
原発巣・非治癒切除	39.5	50.0	46.2	53.8	30.0	35.9	30.3	41.6	37.0	46.2	43.0	49.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	57.2	71.2	66.6	75.5	52.0	60.6	52.9	67.9	56.0	68.6	64.7	72.4
無	20.1	26.7	23.4	30.1	15.2	19.4	15.2	24.0	18.6	24.5	21.8	27.2

*癌腫のみ対象



13. 特別集計:局在コード

院内がん登録は、2007 年診断例から全国のがん診療連携拠点病院等からデータ収集を開始し、がん診療連携拠点病院等における平均的ながん患者の生存率についての情報を提供するため、2015 年に院内がん登録では初めてとなる 2007 年診断例について院内がん登録生存率集計（5 年）を公表した。その後、2017 年 8 月には、院内がん登録 2008 年 5 年生存率報告書を公表した。がん診療連携拠点病院等から収集された院内がん登録情報は、患者の生存確認情報を含め、がん診療を把握する貴重な情報源であり、こうしたデータを研究に利用したいという要望も少なくはない。しかしながら、2008 年、2009 年、2010 年診断例については、院内がん登録データ収集開始初期のデータであり、がん登録実務者において標準登録様式や登録内容の理解にばらつきがあった可能性が高い。

そこで、本集計では特別集計として、2008 年から 2010 年診断例について、症例区分 2, 3 の自施設初回治療開始例における局在コードについて集計を行なった。

なお、院内がん情報の標準化、精度向上のために国立がん研究センターでは、これまで院内がん登録実務者の認定、及び研修を行なってきた。その中で、2012 年診断例からの UICC TNM 分類第 7 版の適応に伴い、より徹底したルールの遵守やルールの明確化に努めるとともに院内がん登録実務者への情報の周知に努めてきた。本集計における院内がん情報は UICC　TNM 分類第 6 版が適応されていた時期であり、十分に登録ルールが周知されていたなかったと推測される部分もある。特に、現在では研修等で広く周知している「.8」境界部位コードや食道、膵臓における原則として使用しないとされるコードの登録状況については注意してご覧いただきたい。

・境界部位コードの取り扱い

我が国のがん登録では、国際疾病分類腫瘍学第 3 版（ICD-O3）に記載されている、「複数の局在分類又は細分類にまたがっている腫瘍について：腫瘍が 2 つ又はそれ以上の局在分類又は局在細分類にまたがって存在しており、さらに腫瘍がどちらから発生したかを特定できない場合、局在細分類「.8」を用いてコードする。」とされるルール C は、原則として適用せず、「.8」コードはできる限り用いないこととしている。理由は、例えば、食道の境界部病巣「C15.8」を用いると、コード上は頸部/胸部の境界部、胸部/腹部の境界部のいずれにあたるのかが区別がつかなくなり、本来、必要な情報が得られなくなるためである。従って、境界部の病巣であっても、可能な限り、診療情報を確認して、主座（原発したと想定される部位）にコード化することが望ましいとして研修を行なってきた。

・特殊な局在コード

特殊な局在コードとして、食道、膵臓の区分がある。これらの局在コードの登録に関しては、主に院内がん登録実務中級者の研修において教育を行なってきた。まず食道の細分類では、二つの違う分類方式が広く使用されており、ICD-O3 および ICD10 にはその両者が存在する。頸部、胸部、腹部という用語はレントゲン所見上や手術中での記述であり、上部、中部、下部 3 分の 1 という用語は内視鏡や臨床上での記述である。これに対し、我が国では、いずれの分類を使用するかの明確な定めがなかった。そのため、院内がん登録においては原則として、食道を C15.0-C15.2 の頸部・胸部・腹部食道の 3 区分でコードするよう指導してきた。但し、コメント等の記載が可能であれば、胸部上部（Ut）、胸部中部（Mt）、胸部下部（Lt）等の食道癌取り扱い規約の表現も併記することが望ましい。さらに、膵臓の局在コードの登録においては、同様の理由から、C25.3 膵管、C25.4 ランゲルハンス島、C25.7 その他の明示された部位のコードは原則として用いないこととなっている。

表　局在コード別登録数（2008 年 5 年予後情報付～2010 年 5 年予後情報付）

		2008 年 5 年予後	2009 年 5 年予後	2010 年 5 年予後
	施設数	226	251	277
C000	外側上唇	(4-6)	(7-9)	(4-6)
C001	外側下唇	36	30	44
C002	外側口唇	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C003	上唇粘膜	(4-6)	(7-9)	10
C004	下唇粘膜	17	19	24
C005	口唇粘膜、NOS	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C006	唇交連	0	(1-3)	(1-3)
C008	口唇の境界部病巣	0	0	0
C009	口唇、NOS	(4-6)	(7-9)	(4-6)
C019	舌根部	213	271	324
C020	舌背面、NOS	42	48	49
C021	舌縁	1,199	1,595	1,816
C022	舌下面、NOS	109	125	168
C023	舌の前 3 分の２，NOS	21	17	12
C024	舌扁桃	(7-9)	(7-9)	(4-6)
C028	舌の境界部病巣	24	21	13
C029	舌、NOS	193	160	230
C030	上顎歯肉	319	385	457
C031	下顎歯肉	487	668	721
C039	歯肉、NOS	17	12	28
C040	前部口腔底	76	90	110
C041	側部口腔底	88	111	112
C048	口腔底の境界部病巣	17	11	(7-9)
C049	口腔底、NOS	159	207	199
C050	硬口蓋	61	90	113
C051	軟口蓋 NOS	101	126	177
C052	口蓋垂	27	26	31
C058	口蓋の境界部病巣	(7-9)	(4-6)	(7-9)
C059	口蓋、NOS	26	28	29
C060	頬粘膜	290	364	381
C061	口腔前庭他	(4-6)	(4-6)	(7-9)
C062	臼後部他	35	46	37
C068	その他及び部位不明の口腔の境界部病巣	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C069	口腔、NOS	22	18	28
C079	耳下腺、NOS	395	500	564
C080	顎下腺	129	169	231
C081	舌下腺	23	28	23
C088	大唾液腺の境界部病巣	(1-3)	0	(1-3)
C089	大唾液腺、NOS	(4-6)	(7-9)	(4-6)
C090	扁桃	29	33	34
C091	扁桃口蓋弓	56	47	53
C098	扁桃の境界部病巣	(4-6)	11	(4-6)
C099	扁桃、NOS	387	461	568
C100	喉頭蓋谷	43	46	70
C101	喉頭蓋の前面	13	14	15
C102	中咽頭側壁	342	369	494
C103	中咽頭後壁	81	103	114
C104	Branchial cleft	(1-3)	(1-3)	(4-6)
C108	中咽頭の境界部病巣	30	30	20
C109	中咽頭、NOS	233	172	201
C110	鼻咽頭上壁	28	46	37
C111	鼻咽頭後壁	89	93	121

		2008年5年予後	2009年5年予後	2010年5年予後
	施設数	226	251	277
C112	鼻咽頭側壁	87	124	159
C113	鼻咽頭前壁	(7-9)	(7-9)	(4-6)
C118	鼻咽頭の境界部病巣	12	10	12
C119	鼻咽頭、NOS	162	172	170
C129	梨状	772	1,017	1,244
C130	後輪状軟骨部	102	135	160
C131	披裂喉頭蓋ひだの下咽頭面	46	75	97
C132	下咽頭後壁	217	284	356
C138	下咽頭の境界部病巣	34	34	30
C139	下咽頭、NOS	378	350	302
C140	咽頭、NOS	27	31	32
C142	ワルダイヤー輪	12	(7-9)	10
C148	口唇、口腔及び咽頭の境界部病巣	(4-6)	(1-3)	(1-3)
C150	頸部食道	440	517	601
C151	胸部食道	4,511	6,112	7,729
C152	腹部食道	269	348	424
C153	上部食道	241	195	181
C154	中部食道	1,083	931	866
C155	下部食道	835	693	658
C158	食道の境界部病巣	143	80	60
C159	食道、NOS	221	146	159
C160	噴門、NOS	3,412	3,769	4,207
C161	胃底部	1,077	1,383	1,467
C162	胃体部	15,959	19,030	22,303
C163	胃前庭部	10,500	12,609	14,268
C164	幽門	1,097	1,048	1,024
C165	胃小彎、NOS	1,232	975	925
C166	胃大彎、NOS	140	93	72
C168	胃の境界部病巣	913	631	488
C169	胃、NOS	1,663	1,473	1,497
C170	十二指腸	574	690	874
C171	空腸	106	123	162
C172	回腸	115	156	212
C173	メッケル憩室	(4-6)	(1-3)	(7-9)
C178	小腸の境界部病巣	0	0	0
C179	小腸、NOS	107	138	130
C180	盲腸	1,920	2,213	2,602
C181	虫垂	190	233	275
C182	上行結腸	4,493	5,310	6,050
C183	右結腸曲	151	170	240
C184	横行結腸	2,596	2,980	3,314
C185	左結腸曲	87	109	119
C186	下行結腸	1,296	1,542	1,728
C187	S状結腸	7,097	8,081	9,364
C188	結腸の境界部病巣	45	29	23
C189	結腸、NOS	95	78	87
C199	直腸S状結腸移行部	2,583	3,235	3,702
C209	直腸、NOS	7,728	8,727	9,961
C210	肛門、NOS	28	33	23
C211	肛門管	190	229	257
C212	総排泄腔由来部	0	0	0
C218	直腸、肛門及び肛門管の境界部病巣	36	17	(4-6)
C220	肝、NOS	10,477	11,826	12,983

		2008 年 5 年予後	2009 年 5 年予後	2010 年 5 年予後
	施設数	226	251	277
C221	肝内胆管	1,163	1,341	1,613
C239	胆のう	1,824	2,052	2,295
C240	肝外胆管	2,490	3,019	3,388
C241	ファーテル乳頭膨大部	540	626	688
C248	胆道の境界部病巣	(1-3)	(7-9)	(1-3)
C249	胆道、NOS	22	18	15
C250	膵頭部	3,703	4,273	5,044
C251	膵体部	1,863	2,164	2,777
C252	膵尾部	1,113	1,292	1,543
C253	膵管	65	44	71
C254	ランゲルハンス島	24	24	30
C257	膵のその他の明示された部位	10	(1-3)	(1-3)
C258	膵の境界部病巣	194	154	187
C259	膵、NOS	358	245	256
C260	腸管、NOS	(7-9)	(7-9)	(7-9)
C268	消化器系の境界部病巣	(1-3)	(4-6)	(7-9)
C269	胃腸管、NOS	12	11	14
C300	鼻腔	285	360	403
C301	中耳	(7-9)	23	26
C310	副鼻腔	374	484	519
C311	篩骨洞	64	80	104
C312	前頭洞	(7-9)	(4-6)	10
C313	蝶形骨洞	19	25	19
C318	副鼻腔の境界部病巣	(7-9)	(4-6)	(1-3)
C319	副鼻腔、NOS	27	48	35
C320	声門	1,437	1,628	1,913
C321	声門上部	588	740	773
C322	声門下部	74	98	97
C323	喉頭軟骨	(1-3)	(4-6)	(4-6)
C328	喉頭の境界部病巣	29	13	(7-9)
C329	喉頭、NOS	194	153	135
C339	気管	24	45	42
C340	主気管支	1,106	1,332	1,613
C341	上葉、肺	14,120	17,223	19,946
C342	中葉、肺	1,584	1,877	2,239
C343	下葉、肺	10,477	12,791	14,936
C348	肺の境界部病巣	187	110	95
C349	肺、NOS	1,250	972	956
C379	胸腺	351	412	526
C380	心臓	29	36	41
C381	前縦隔	149	184	218
C382	後縦隔	19	19	21
C383	縦隔、NOS	104	131	161
C384	胸膜、NOS	354	419	498
C388	心臓、縦隔及び胸膜の境界部病巣	(1-3)	(1-3)	(4-6)
C390	上気道、NOS	0	0	0
C398	呼吸器系及び胸腔内臓器の境界部病巣	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C399	部位不明確の呼吸器系	(1-3)	(1-3)	0
C400	上肢の長骨、骨格骨及びその間接	36	44	47
C401	上肢の短骨及びその間接	(7-9)	(1-3)	(1-3)
C402	下肢の長骨及びその間接	138	184	186
C403	下肢の短骨	(4-6)	(4-6)	10

		2008年5年予後	2009年5年予後	2010年5年予後
	施設数	226	251	277
C408	四肢の骨、関節及び関節軟骨の境界部病巣	(1-3)	0	(1-3)
C409	四肢の骨、NOS	(7-9)	0	(1-3)
C410	頭蓋骨、顔面骨及びその関節	27	41	36
C411	下顎	26	31	40
C412	脊柱	46	56	72
C413	肋骨、胸骨、鎖骨及びその関節	41	52	70
C414	骨盤骨、仙骨、尾骨及びその関節	80	96	94
C418	骨、関節及び関節軟骨の境界部病巣	0	(1-3)	(4-6)
C419	骨、NOS	15	21	25
C420	血液	122	111	108
C421	骨髄	7,028	8,638	9,654
C422	脾	101	115	135
C423	細網内皮系、NOS	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C424	造血系、NOS	(1-3)	(4-6)	17
C440	口唇の皮膚、NOS	151	173	180
C441	眼	462	605	753
C442	外耳	339	394	479
C443	その他及び部位不明の顔面の皮膚	2,270	2,709	3,113
C444	頭皮及び頸の皮膚	414	504	611
C445	体幹の皮膚	725	918	978
C446	上肢及び肩の皮膚	453	511	585
C447	下肢及び股間節部の皮膚	764	841	1,010
C448	皮膚の境界部病巣	24	35	45
C449	皮膚のNOS	104	98	134
C470	頭部、顔面及び頸部の末梢神経及び自律神経系	(4-6)	(7-9)	(7-9)
C471	上肢及び肩の末梢神経及び自律神経系	(7-9)	(4-6)	(7-9)
C472	下肢及び股関節部の末梢神経及び自律神経系	(4-6)	(4-6)	(4-6)
C473	胸郭の末梢神経及び自律神経系	(1-3)	(1-3)	(7-9)
C474	腹部の末梢神経及び自律神経系	(1-3)	(4-6)	(1-3)
C475	骨盤の末梢神経及び自律神経系	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C476	体幹の末梢神経及び自律神経系、NOS	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C478	末梢神経及び自律神経系の境界部病巣	(1-3)	0	(1-3)
C479	自律神経系、NOS	(1-3)	(4-6)	0
C480	後腹膜	244	265	383
C481	腹膜の明示された部位	75	83	136
C482	腹膜、NOS	162	200	261
C488	後腹膜及び腹膜の境界部病巣	(4-6)	(7-9)	(4-6)
C490	頭部、顔面及び頸部の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	95	99	149
C491	上肢及び肩の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	128	139	163
C492	下肢及び股関節部の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	423	517	595
C493	胸郭の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	102	105	97
C494	腹部の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	51	60	89
C495	骨盤の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	102	124	151

		2008年5年予後	2009年5年予後	2010年5年予後
	施設数	226	251	277
C496	体幹の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織、NOS	39	56	84
C498	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織の境界部病巣	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C499	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織、NOS	41	58	71
C500	乳頭	106	70	75
C501	乳房中央部	1,118	1,383	1,660
C502	乳房上内側4分の1	4,225	5,170	6,071
C503	乳房下内側4分の1	1,397	1,669	1,971
C504	乳房上外側4分の1	8,836	10,720	12,485
C505	乳房下外側4分の1	2,090	2,661	2,888
C506	乳腺腋窩尾部	58	46	65
C508	乳房の境界部病巣	2,249	1,895	1,530
C509	乳房、NOS	509	533	578
C510	大陰唇	53	85	96
C511	小陰唇	15	26	43
C512	陰核	(4-6)	(1-3)	(4-6)
C518	外陰の境界部病巣	13	(7-9)	(7-9)
C519	外陰、NOS	180	228	248
C529	膣、NOS	117	162	161
C530	子宮頸部内膜	609	632	699
C531	子宮頸部外部	641	769	975
C538	子宮頸の境界部病巣	130	206	132
C539	子宮頸	2,975	3,398	4,076
C540	子宮峡部	31	32	25
C541	子宮内膜	2,574	3,397	4,215
C542	子宮筋層	179	194	270
C543	子宮底	76	92	123
C548	子宮体部の境界部病巣	30	20	14
C549	子宮体部	1,627	1,597	1,672
C559	子宮、NOS	35	37	33
C569	卵巣	3,255	3,612	4,111
C570	卵管	104	113	142
C571	子宮広間膜	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C573	子宮傍組織	0	0	0
C574	子宮付属器	(1-3)	(4-6)	(1-3)
C577	その他の明示された女性生殖器	(1-3)	0	0
C578	女性生殖器の境界部病巣	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C579	女性生殖系NOS	(7-9)	(1-3)	(1-3)
C589	胎盤	19	16	23
C600	包皮	(4-6)	16	15
C601	亀頭	48	55	76
C602	陰茎体部	25	12	28
C608	陰茎の境界部病巣	(4-6)	(4-6)	(4-6)
C609	陰茎、NOS	59	66	81
C619	前立腺	16,043	21,604	24,827
C620	停留精巣	13	23	23
C621	下降精巣	213	315	402
C629	精巣、NOS	425	455	511
C630	精巣上体	(1-3)	(4-6)	(7-9)
C631	精索	(7-9)	(7-9)	(7-9)
C632	陰のう、NOS	107	125	139

		2008 年 5 年予後	2009 年 5 年予後	2010 年 5 年予後
	施設数	226	251	277
C637	その他の明示された男性生殖器	0	(1-3)	(1-3)
C638	男性生殖器の境界部病巣	(7-9)	(1-3)	0
C639	男性生殖器、NOS	(7-9)	(4-6)	(1-3)
C649	腎、NOS	4,522	5,388	6,225
C659	腎盂	910	1,089	1,338
C669	尿管	793	1,070	1,226
C670	膀胱三角	266	313	396
C671	膀胱円蓋	94	164	187
C672	膀胱側壁	1,456	1,746	2,172
C673	膀胱前壁	176	220	288
C674	膀胱後壁	614	732	872
C675	膀胱頸部	248	309	402
C676	尿管口	347	409	576
C677	尿膜間	39	39	54
C678	膀胱の境界部病巣	288	296	313
C679	膀胱、NOS	1,315	1,197	1,193
C680	尿道	41	43	63
C681	尿道傍腺	0	(1-3)	(1-3)
C688	泌尿器の境界部病巣	(1-3)	0	(1-3)
C689	尿路系、NOS	14	18	21
C690	結膜	73	103	130
C691	角膜、NOS	(1-3)	0	(1-3)
C692	網膜	42	45	44
C693	脈絡膜	28	34	39
C694	毛様体	(1-3)	(7-9)	18
C695	涙腺	22	24	34
C696	眼窩、NOS	78	110	144
C698	眼及び付属器の境界部病巣	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C699	眼、NOS	(7-9)	(1-3)	13
C700	脳髄膜	1,249	1,527	2,081
C701	脊髄膜	(1-3)	(1-3)	(1-3)
C709	髄膜、NOS	108	147	142
C710	大脳	279	365	445
C711	前頭葉	575	736	902
C712	側頭葉	357	456	512
C713	頭頂葉	160	236	265
C714	後頭葉	87	68	94
C715	脳室、NOS	123	168	166
C716	小脳、NOS	369	432	568
C717	脳幹	143	197	237
C718	脳の境界部病巣	60	59	49
C719	脳、NOS	312	287	373
C720	脊髄	29	51	58
C721	馬尾	(4-6)	(4-6)	(4-6)
C722	嗅神経	(1-3)	(4-6)	(4-6)
C723	視神経	(4-6)	24	24
C724	聴神経	383	481	625
C725	脳神経、NOS	63	72	107
C728	脳及び中枢神経系の境界部病巣	(4-6)	10	10
C729	神経系、NOS	25	36	65
C739	甲状腺	4,271	4,903	5,647
C740	副腎皮質	20	29	45
C741	副腎髄質	12	23	27

		2008年5年予後	2009年5年予後	2010年5年予後
	施設数	226	251	277
C749	副腎、NOS	71	103	105
C750	上皮小体	(4-6)	(7-9)	10
C751	下垂体	889	1,263	1,503
C752	頭蓋咽頭管	43	61	62
C753	松果体	63	66	107
C754	頸動脈小体	(1-3)	0	0
C755	大動脈小体及びその他のパラガングリア	0	0	(1-3)
C759	内分泌腺、NOS	0	(1-3)	0
C760	頭部、顔面又は頸部、NOS	29	26	17
C761	胸郭、NOS	21	19	28
C762	腹部、NOS	28	44	38
C763	骨盤、NOS	20	24	18
C764	上肢、NOS	0	(1-3)	(1-3)
C765	下肢、NOS	(4-6)	(4-6)	(1-3)
C767	その他の不明確な部位	(7-9)	(1-3)	(7-9)
C768	部位不明確の境界部病巣	0	0	(1-3)
C770	頭部、顔面及び頸部のリンパ節	1,308	1,446	1,586
C771	胸腔内リンパ節	126	164	159
C772	腹腔内リンパ節	624	702	757
C773	腋窩又は腕のリンパ節	164	197	211
C774	下肢又はそけい部のリンパ節	314	389	382
C775	骨盤リンパ節	35	38	36
C778	多部位のリンパ節	1,353	1,792	2,156
C779	リンパ節、NOS	872	995	971
C809	原発部位不明	1,599	1,726	2,102

付表一覧

1.生存状況把握割合について

0)生存状況把握割合が 90%未満であった施設からの意見
1)調査参加施設の生存状況把握割合

2.都道府県別 2009-2010 年 5 年生存率集計

0)都道府県別生存率についての各都道府県からの意見
1)全がんの生存率と集計対象属性:都道府県別
2)胃(C16)の生存率と集計対象属性:都道府県別
3)大腸(C18-20)の生存率と集計対象属性:都道府県別
4)肝(C22)の生存率と集計対象属性:都道府県別
5)肺(C33-34)の生存率と集計対象属性:都道府県別
6)女性乳房(C50)の生存率と集計対象属性:都道府県別
7)食道(C15)の生存率と集計対象属性:都道府県別
8)膵臓(C25)の生存率と集計対象属性:都道府県別
9)子宮頸部(C53)の生存率と集計対象属性:都道府県別
10)子宮体部(C54)の生存率と集計対象属性:都道府県別
11)前立腺(C61)の生存率と集計対象属性:都道府県別
12)膀胱(C67)の生存率と集計対象属性:都道府県別

3.施設別 2009-2010 年 5 年生存率集計

1)主要 5 部位施設別生存率